星の勇者スターファイター

剣聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
星の勇者スターファイター

【Ｎコード】
Ｎ６８５９Ｖ

【作者名】
剣聖龍

【あらすじ】
謎の現象、“次元震”により、次元の壁が破壊され幾つもの世界が混ざった多次元銀河系。
そこへ来訪する強大な力を持つ悪しき覇者、それを迎え撃つ多次元銀河の勇者達。
だが、勇者達の前に更なる力を持つ敵が現れる。
その力の前に苦戦する勇者達。
だが、彼等の前に新たなる勇者が、そしてもうひとつの勇者王が現れる。

登場作品紹介（前書き）

初投稿ですがよろしくお願いします！

登場作品紹介

登場作品

・ガンダムシリーズ
（G、デスティニー、劇場版OO）
・真マジンガー衝撃！Z編・マジンカイザー　死闘！　暗黒大将軍！
・劇場版　天元突破グレンラガン
・勇者王ガオガイガー
・勇者王ガオガイガーFINAL
・魔法少女リリカルなのはストライカーズ
・スタードライバー　輝きのタクト
・獣装機攻ダンクーガノヴァ
・超重神グラヴィオンツヴァイ
・鉄のラインバレル
・鋼鉄神ジーグ
・神魂合体ゴーダンナー！！・超電磁マシーン　ボルテスV
・超電磁ロボ　コン・バトラーV
・神羅万象チョコ　ゼクスファクター

武器、技のみ登場

ダンボール戦機

※上記は確実に決まっているもので、他にも追加する予定。

登場作品紹介（後書き）

感想など、あったらお願いします！

世界観紹介（前書き）

世界観紹介です。
かなり作品をしぼりました。

世界観紹介

世界観紹介（作品毎）

Gガンダム

・キャラと機体が登場。

キャラはドモン、チボデー、ジョルジュ、サイ・サイシー、アルゴ、レイン、アレンビー。普段はオーブに居る。

・敵にデビルガンダムが居る。

・時系列は既にアニメが終了している所。

ガンダムシードデスティニー

・オーブが登場。それにより、アークエンジェル、エターナルはオーブに。

また、シン、ルナマリア、ミネルバのクルーはアークエンジェル等に搭乗している。

・時系列はアニメが終了している所。

ガンダムＯＯ

・この世界の地球が殆どのベースになっており、地上には軌道エレベーター、宇宙にはソレスタルビーイング号がある。

・ソレスタルビーイングはプトレマイオス２改に。刹那は帰還しており、ＥＬＳと融合しているが、見た目は変わらず。

・この世界の地球軍を中心に地球防衛軍が組まれている。

・時系列は劇場版が終了した所だが、５０年は経っていない。

真マジンガー衝撃！Ｚ編

・日本に光子力研究所、くろがね屋がある。

・敵としてドクターヘルが居る。またバードス島がある。

・マジンガーＺの装甲が超合金ニューＺになり、マジンガー軍団が

量産されている。
・時系列はローレライ編が終了した所。

マジンカイザー　死闘！暗黒大将軍！
・登場するのは鉄也、ジュンのみ。
・機体はグレートマジンガー（真）、ビューナスA。
・マジンカイザーは登場未定。
・時系列は暗黒大将軍が侵略を始める前。

劇場版　天元突破グレンラガン
・暗黒大陸（アフリカに出現した大陸）にカミナシティを建造している。
・時系列はアンチスパイラルが出現した所。

勇者王ガオガイガー
・地上にはGアイランドシティ、宇宙にはオービットベースがある。また、地上にはヘキサゴンを修理したヘキサゴン2があり、地上本部として使用されている。
・ディビジョン5、フツヌシ、9、ミズハ、更にツクヨミ、タケハヤ、ミズハがオービットベースにある。また、イザナギ、カナヤゴ、スサノオ、アマテラスは量産され地球防衛軍が使用している。（色は灰色）
・光竜、闇竜、ジェイアーク、ルネがオービットベースに居る。またルネは改造により体の発熱が無くなっている。
・オービットベースに弾丸Xの強化版、『弾丸X2』がある。
・時系列はアニメが終了した所だが、護が旅立っていない。
その為、凱はエヴォリュダーになりつつも、引き続きスターガオガイガーに搭乗している。

ガオガイガーFINAL

・ジェネシックガオガイガーは出ない。

魔法少女リリカルなのはストライカーズ
・地球と同じ周回軌道上にミッドチルダがある。
だが同じ速度で進んでいるのでぶつからない。
・機動六課は健在していて、ナンバーズも居る。
・スカリエッティは脱走している。
・時系列はアニメが終了した所。

スタードライバー　輝きのタクト
・日本の沖縄付近に南十字島がある。
・全てのシルシが復活し、綺羅星十字団は解散、味方に。またサイバディが通常空間でも活動可能。
・時系列はアニメが終了した所。

ダンクーガノヴァ
・竜牙島があり、そこを拠点としている。
・時系列はアニメが終了した所だが、ドラゴンズハイヴは破壊されておらず、チームDも健在。

グラヴィオンツヴァイ
・ドイツに城があり、グラントルーパー隊も居る。
・時系列はアニメが終了した所。

鋼鉄神ジーグ
・日本にビルドベースがある。
・先代ジーグが仲間になっている。
・時系列はアニメが終了した所。

鉄のラインバレル

・ＪＵＤＡが日本にある。
・加藤機関のメンバーは地球防衛軍に。
・時系列はアニメが終了した所。

ゴーダンナー
・ダンナーベースが日本にある。それ以外は無し。
・時系列はアニメのセカンドシーズンが終了した所だが、ゴオがサナギになっておらず、剣が生きている。

ボルテスＶ
・機体とパイロット、博士が登場。普段は光子力研究所に居る。
・時系列はアニメが終了した所。

コン・バトラーＶ
・機体、パイロット、博士、ロペットが登場。
普段はボルテスＶ同様、光子力研究所に居る。
・時系列はアニメが終了した所。

神羅万象チョコ　ゼクスファクター
・アマゾンに耶馬都がある。が、外界獣が敵に居る。・火群カイは出ない。更に、鳳凰学園に紺晶石は無い。
・時系列は第２弾が終了した所。

世界観紹介（共通）
・地球とミッドチルダには転送装置があるが、余程の事が無い限り使われない。・多次元銀河系の人々は自分達が光人類だという事を知っているが、闇人類や悪魔等は敵としか思っていない。（ワール

ド連合も例外では無い）

ワールド連合について

・多次元銀河防衛勇者隊が正式名称。
手っ取り早く言えば各世界の戦士が集まった組織。
総司令は大河幸太郎。
主に指令を出す『指令部隊』と敵と闘う『機動部隊』の２つに別れている。
全てのメンバーはＤからＳまでランク付けされており、それによってＩＤカードの色等が違う。

・Ｄランク
一言で言えば私服警備員みたいな存在。
敵などを発見したら連絡したり、市民の避難の誘導等が主な役割。
避難する時には一緒に避難する。
色は灰色。

・Ｃランク
昔で言えば足軽。
リリカルなのはの魔導師等が当てはまる。
主な役割は敵に対しての牽制や足止め。
色は緑色。

・Ｂランク
ここからは機動部隊のメンバーや指令部隊のオペレーター等に割り振られる。
敵に対しての攻撃や拠点の防衛等が役割。
色は青色。

・Ａランク

指令部隊と機動部隊の中でも実力者のみに与えられるランク。
ワールド連合の主戦力。
強大な力を持つ者が多い為、リミッターを掛けられている者も居る。
色は赤色。

・Sランク
指令部隊、及び機動部隊に対して命令権を持つワールド連合の中では最高のランク。
だが今の所、Sランクは総司令の大河幸太郎のみ。
尚、リミッター等の取り外しも大河の許可がなければ出来ない。
色は黒色。

・主な敵について
敵の殆どが悪魔と手を組んでいる。
主な敵は以下の通り。

機械獣
ゾンダー（悪魔により復活）デビルガンダム（悪魔により復活）
アンチスパイラル
ガジェット
外界獣
悪魔

等、まだ増える予定です。

プロローグ

物語に出てくる世界の歴史（まだ多次元銀河系になる前の話）
太古の昔、光の神ゼウスのと闇の神ハーデスがおさめる国があった。しかし平和を望むゼウスと侵略を望むハーデスの意見の食い違いによって、遂にハーデスの国がゼウスの国に侵略を開始し、２つの国は全面戦争に入る。結末はハーデスの戦死によりゼウスの国の勝利に終わり２つの国は停戦の約束を結んだ。ゼウスの国は地上に残り『光人類』となりハーデスの息子、ウラヌスが継いだ国は侵略の罰として深い地の底へ閉じ込められ『闇人類』なった。それから時間が流れゼウスは既に亡くなっていたがその子供達が国をおさめており、いつしかそれは『ゼウス一族』と呼ばれるようになった。一方、地の底のウラヌスの国は急変していた。ウラヌスが死んだ後に停戦の約束や自分達が『闇人類』と呼ばれるようになった事の経緯を知る者がいなくなり、やがて『光人類』は自分達の為に我らを地の底へ追いやった。等の噂が出回ってしまい、やがて闇人類達は強い憎しみの力でその体を進化させ生まれた者、それは悪魔だった。悪魔達は様々なものを生み出した。進化した人類、古代文明の遺産から生まれた獣。戦闘機械を作り出す科学者等を生み出し戦力を蓄えていった。光人類に復讐する為に。
※光人類と闇人類に分かれた所までが教科書等に載っていて、多次元銀河系の人間などはすべて光人類。

その後、光人類は様々な次元に別れていった。
それから長い時間が経ち、突如起きた謎の現象、次元震により次元の壁が破壊され、幾つもの世界が混ざり合った多次元銀河系が誕生した。
そこへ襲来する数々の敵。始めは意見等の食い違い等から一緒に闘えずにいた戦士達。

だが彼等は、少しずつお互いを理解していき、やがてＧＧＧをベースにした多次元銀河防衛勇者隊、通称『ワールド連合』が誕生した。
ワールド連合は激闘の果てに、擬態獣、邪魔大王国、ゾンダー、セントラル、ゼラバイア、ムーンＷＩＬＬを撃破、更にスカリエッティを逮捕する事に成功した。
だが、喜びもつかの間新たなる敵が襲来する。
その名を『悪魔』。
悪魔は強大な負の力を操る為、ワールド連合も苦戦を強いられた。
更に他の敵もまだ残っており、激戦は未だに続いている…

第０話　始まり

～ナレーションＳＩＤＥ、？？？～
そこは虹色だった。
虹色の光やもやといったものがそこを公成している為、辺り一面が虹色だった。そこに４人の人が居る。
その内３人はまるで天使のような服装をしており、残る１人は両手に黄金色の宝石のようなものが装着されたグローブをはめており、その者の首の両横には小人サイズの男の子と女の子のような者がふわふわと浮いており、更にグローブをはめた者の背後には銀のボディに青緑のラインが刻まれている戦闘機のようなものがあった。

？？？
「では、頼みましたよ、捷也」

捷也
「分かってますよ」

天使のような服装をしている３人の真ん中にいる、杖を持ち、まるで大天使を思わせるような女性の天使がグローブをはめている少年、星野捷也に確認をとるように話し掛ける。
それに捷也は返事を返し、返事を返した者の両横にいる男性の天使と女性の天使に目を向けた。

捷也
「ガイネル、ソフィア。ありがとう、今まで特訓してくれて」

ガイネル
「もう会えねえ、みたいな風に言うなよ。読者の皆さんが勘違いし

ちまうじゃねえか」

捷也

「そりゃそうだね」

ソフィア

「捷也…」

男性の天使、ガイネルと会話する捷也。

そこへ女性の天使、ソフィアが捷也に不安を混ぜた視線を向ける。

捷也

「心配しないで下さい。また会えますよ」

ソフィア

「…はい。必ずですよ」

そう言ってソフィアは捷也に抱き付く。

実は、ソフィアは捷也に恋をしているのだ。

数秒間の抱擁を交わし、再び捷也は向き直る。

???

「大丈夫だぜ、捷也！俺がついてるからな！」

???

「我も居るぞ！」

捷也にそう言ったのは、捷也の首の両横に浮いている頭から一本の角が生えた男の子、龍鬼と、九本の尻尾を生やし、頭からは狐の耳を生やした女の子、イヅナだ。

感のいい読者なら分かるかもしれないが、この2人は『神羅万象チョコ　ゼクスファクター』に出てくるアイテム、『神具』に宿っている精霊のような存在、『魂獣』だ。
龍鬼は捷也の両手にはめているグローブ型神具『六道拳アスラ』の魂獣、イヅナは神具ではないが、神具のコアである『魂石』の塊、『紺晶石』の魂獣だ。
ちなみに、龍鬼もイヅナも捷也と契約している。

捷也
「じゃあ、そろそろ行きますね」

ガイネル
「気を付けてな」

ソフィア
「頑張って下さい」

???
「信じた道を行きなさい、星野捷也」

捷也
「はい」

捷也は応えると首に掛かっている様々な宝石が合体したようなペンダント、『スタークリスタル』を握り締め、背後の戦闘機のコックピットに向かった。
龍鬼とイヅナも捷也に続いていく。

捷也
「行こうか、ファントムガオー」

ファントムガオー
『了解しました、マスター』

銀色の戦闘機、ファントムガオーが応え、コックピットハッチが閉まる。
ファントムガオーが浮き、目の前の空間に虹色のビームを撃ち込む。
すると、その空間が裂けて亜空間ゲートが発生した。そのゲートにファントムガオーが向かっていく。
ファントムガオーがゲートに入りきった時、亜空間ゲートは閉じ、元の虹色の空間に戻った。
その様子を3人は黙って見ていたが、ガイネルが口を開いた。

ガイネル
「…皮肉なもんだよな、捷也」

ソフィア
「こんなの…悲しすぎます…」

ソフィアはぽろぽろと涙を流す。

???
「ソフィア、泣いてはいけません」

ソフィア
「ラフィエル様…」

ラフィエル
「これは捷也の運命、そして捷也自身が望んだ事。我らはそれを見守り続ける義務があるのです。分かりますね？」

ソフィア
「…はい」

ソフィアはラフィエルに応え、涙を拭う。

ラフィエル
（頼みましたよ、捷也。いえ、スターファイター…）
ラフィエル、ガイネル、ソフィア。この3人は『ゼウス一族』であり、ラフィエルは現在のゼウス一族の長である。

〜？？？〜

捷也
「ここか…」

格納庫のような場所に亜空間ゲートが開き、そこからファントムガオーが現れ、着陸する。
コックピットが開き、捷也が靴底を床につけ、辺りを見渡す。

捷也
「ファントム、お前は格納庫で待機していてくれ」

ファントムガオー
『了解しました』

ファントムガオーに指示を出した捷也は見渡した時に見つけたエレベーターに乗った。
どうやら行き先が決まっているのか、乗った途端にドアが閉まり、動き出す。
それが停止し、ドアが開くと何処かの高級マンションのような光景が広がっていた。

「おいおい…マジかよ」

エレベーターから出た捷也は高そうなソファーに座り込む。
捷也が見渡しても、他の家具も完全に高そうなものばかりだった。

龍鬼
「おお！？なんだこりゃ！？」

イヅナ
「やたらと豪華な部屋じゃな」

いつの間にか出てきた龍鬼とイヅナがワイワイと騒いでいた。

捷也
「あのなぁ…遊びに来たんじゃ無いんだぞ、龍鬼、イヅナ」

龍鬼
「あ、すまん…つい」

イヅナ
「捷也、これからどうするのだ？」

イヅナが問い掛けると、捷也は考え込む。

捷也
「…とりあえず」
2人
「「とりあえず？」」
それからたっぷり間を取って捷也は言った。
捷也
「寝よう」
その言葉に龍鬼とイヅナはずっこけた。
捷也
「良いじゃないか。眠いし」
そう言うと、捷也は大きなあくびをした。
龍鬼
「まあ、良いか」
イヅナ
「捷也と寝るのなら良いぞ」
2人も承諾し、捷也達は部屋に向かった。
～部屋～

捷也
「また、ここも広いこった…」
部屋までも大きかった事に、捷也は少し脱力しながらもベッドに腰掛ける。

捷也
「いや、流石に荷物の整理位はしとくか」

そう言って捷也は首に掛けてあるスタークリスタルに意識を集中する。
すると、スタークリスタルから虹色の光が放出され、その光はリュックと旅行カバンになった。
スタークリスタルには物体を量子変換し、収納しておく機能があるのだが、これを使えるのは捷也のみという事と、まだ他に収納してあるものがたくさん有るため無闇には使えないのだ。とりあえず捷也は旅行カバンとリュックの荷物を取り出し、部屋に置いていく。
龍鬼とイヅナも手伝ったので、わりと早く終わった。荷物の整理が終わると、捷也は寝間着に着替え、ベッドに入る。
龍鬼とイヅナも捷也を挟んで左右に入り、3人とも目を閉じた。
そして3人の意識はわりと早く沈んでいったのだった。

第0話　始まり（後書き）

これからたまに、後書きでアイテム等の紹介をしていきます。

紹介その1（神具）

・神具（アーティファクト）太古の遺跡等から出てきた謎のアイテム。
剣、本、グローブといった様々な形をしている。
神具1つにつき、『魂獣』と呼ばれる存在が宿っており、魂獣と契約する事で神具の力を使えるようになる。
基本的には1人につき1つまでしか契約出来ず、契約した者しかその神具は使えない。
契約が破棄されるのは、魂獣が自ら契約破棄するか、契約した者が死亡した時のみ。

・因使（ファクター）
魂獣と契約し、神具を使える者の事。
神具の能力を使用する事が出来る。

・魂石（クリスタル）
神具のコアとなっている宝石のようなもの。
これに魂獣は宿っている。必ず1つはあり、魂石の数や大きさが魔力の大きさに関係している。
また、魂石には種類があり、それは以下の通り。

白虎（びゃっこ）
属性は金。主に金属や地盤等を操る。魂石は透明から乳白色。

青龍（せいりゅう）

属性は木。主に植物を操り、上級者は電気、風、毒を使用可能。魂石は青色。

麒麟（きりん）
属性は土。主に光を操り、上級者は磁力や重力を使用可能。魂石は黄金色。

玄武（げんぶ）
属性は水。主に水を操り、上級者は氷や冷気を使用可能。魂石は緑色。

朱雀（すざく）
属性は火。純粋に火を操る。魂石は赤色。

・魂獣（スピリッツ）
神具の魂石に宿っている精霊のような存在。
魂獣が認める事によって初めて心を通わし、契約が成立する。
基本的には不定形のものが多いが、魔力が強力なものはきちんとした姿をしている。

・魂獣解放（スピリッツ・バースト）
魂獣の力を解放し、進化させる事。
これを行うと魂獣の姿が変化し、能力が強力になる。

・魂獣武装（スピリッツ・アームズ）
魂獣と神具を融合させ、契約者と合体する事。
魂獣の能力を直接使役出来る強力な姿になる事が出来る。

・神具多重能力（デュアルアビリティ）
神具の能力の１つ。

既に神具を契約した状態で、他の神具を契約出来る能力の事。

・紲晶石魂石（せっしょうせきこんせき）の塊で、紫色の宝玉のような形をしている秘宝。強力な魔力を秘めており、その魂獣と契約し、融合する事で“無”の力を司る姿になる。
神具では無い為、神具多重能力が無くても契約出来る。

・ゼクスファクター
紲晶石の魂獣と融合し、“無”の力を司る姿。
だが、その力は人によって千差万別である。

次回予告も行います

次回
第1話　謎の欠片
お楽しみに！

『スターガオガイガー』

これが勝利の鍵だ！

第1話　謎の欠片

～捷也ＳＩＤＥ～
異次元ルーム（この部屋の名前）に来てから2週間が経った。
この異次元ルームの設備にはかなり高性能なコンピューター等も揃っていたので、ここの所はワールド連合を観察していた。
その途中で、アメリカ、中国、ドイツで保管していた謎の物体、通称『Ｑパーツ』が何者かによって奪われた事を僕は知った。

捷也
「…多分バイオネットだろうな」

椅子に座りながら呟く。

イヅナ
「どうするのだ、捷也？そのＱパーツとやらはバイオネットが３つも持っており、最後の一個はワールド連合の地上本部にあるのだろう？」

捷也
「いや、ワールド連合はＱパーツを今まで奪われた事から、最後のＱパーツを地上本部から宇宙のオービットベースに搬送するみたいなんだ。でも恐らくバイオネットはそこを狙って来る」

龍鬼
「でもワールド連合も黙って見てる訳ないだろ？」

捷也
「恐らく全ての機動部隊で護衛をするだろうけど、もし敵が悪魔と

手を組んでいたら…」

そこで捷也は言動を止める。

イヅナ

「で？結局どうするのだ？」

捷也

「とりあえず、様子見には行く。もし悪魔が出たらその時は闘うけどね」

龍鬼

「ワールド連合には会わないのか？」

捷也

「まだいいさ。こんな早期に手の内を見せる訳にはいかないからな。とりあえず今は情報を集めるか敵に備えて訓練をする位しかない」

そう言って捷也は立ち上がり、格納庫へと続くエレベーターに龍鬼とイヅナと共に向かっていった。

～格納庫～

格納庫に降りた3人はファントムガオーに歩み寄る。だがファントムガオーの横には青緑のロケット、両翼に筒のようなものを搭載したステルス戦闘機、フィンが付いたドリルが2つ搭載された戦車といった捷也が来た時は無かった3つのマシンがあった。

捷也
「ファントム。ガオーマシンの様子は？」
ファントムガオーに歩み寄った捷也がファントムガオーに問い掛ける。
ファントムガオー
『３機とも特に問題ありません、マスター。何時でも実戦可能です』
その問い掛けをファントムガオーが淡々と答える。
捷也
「そうか。なら何時も通りシミュレーターを起動してくれ」
ファントムガオー
『了解しました』
捷也はファントムガオーのコックピットに入り、ファントムガオーはシミュレーターを起動した。
～３０分後～
シミュレーターを終えた捷也がコックピットから降りる。
捷也
「よし、訓練終了。ほんじゃ後は暇だしＤＶＤでも見るか」
龍鬼
「俺は今日はイナ○マ○イレ○ンが見たいな！必殺技がカッコいいし！」

イヅナ
「我は○カデ○ー大賞が見たいのう！あの笑いはたまらん！」
捷也
「僕は…イ○フィ○ット・○トラ○スにしようかな」
そう言いながら僕達はエレベーターにのって移動した。

～1週間後～
1週間経った今日は、ワールド連合がQパーツをオービットベースに搬送する日となった。
今、僕は格納庫で発進準備に入っていた。
捷也
「よし、行くぞ！フォームアップ！エレメントナイト！！」

スタークリスタルを握り、僕は叫んだ。
すると、スタークリスタルが輝き、次の瞬間、僕の体は白を基調とした騎士のような鎧を纏っていた。
これが僕の闘う時の姿、その名を『エレメントナイトフォーム』。
この姿の特徴は“エレメント”の名の如く火や雷、氷といった様々な属性を操る事が出来る事だ。それにより特定の属性に特化した姿になる事も可能だ。
武器は属性を操る剣『エレメントソード』、普段は左腕に折り畳まれているいる弓、『エレメントアロー』。
エレメントアローは弓だけを展開し、属性の矢を撃ち出す事が出来る武器で、矢を引くのではなく、取り付けた二連装の砲口から矢を

撃ち出すので非常に便利な武器だ。
後はスタークリスタルに量子変換されている武器と言った所だ。（イヅナと龍鬼は紺晶石とアスラに戻り、スタークリスタルに量子変換されている）
エレメントナイトフォームになった僕はファントムガオーのコックピットに乗り込んだ。

捷也
「よし、異次元カタパルト、展開」

ファントムガオー
『了解』

そう言うと格納庫が変形してカタパルトになり、ファントムガオーの下の床が変形して射出用の台座となり、前方に異次元のゲートが形成された。

ファントムガオー
『進路クリアー、オールグリーン。発進準備、完了』

捷也
「星野捷也、ファントムガオー、行きます！」

その声と共にファントムガオーを乗せた台座が勢い良く滑り出し、ファントムガオーが射出される。
そしてファントムガオーは異次元ゲートに突入し、格納庫から姿を消した。
～捷也ＳＩＤＥＯＵＴ～

～ナレーションＳＩＤＥ、Ｇアイランドシティ～
ここ、Ｇアイランドシティの中心部にあるベイタワー基地の海中部分にあるワールド連合の地上本部、『ヘキサゴン２』から最後のＱパーツを乗せたコンテナが本部であるオービットベースに搭載されているディビジョン艦の１つ、ツクヨミに運び込まれようとしていた。
ベイタワー基地の周囲の地上では多次元銀河系から遠く離れた『三重連太陽系』の『緑の星』で作られた人の“勇気”を力に変える宝石、『Ｇストーン』で稼動する『最強勇者ロボ軍団』を始めとするスーパーロボットが、空中には人型の機体、『ＭＳ』や魔法を使う者達が飛び交い、Ｑパーツを守るべく目を光らせていた。
その他にも警備員等が多数配置されている。
その中の１人が見回りをしていた時、突然物陰に引き摺り込まれ、“ドスッ”という鈍い音が響く。
そして数秒後、物陰からはその警備員の服装をした者が出てきた。
その者はＱパーツが積み込まれたコンテナに近付いていく。

警備員
「おい、お前。何をしている？持ち場はどうした？」

コンテナの周りの警備員が訪ねる。

？？？
「いや、少し伝える事がありましてね」

警備員
「なんだ？」

？？？
「Qパーツは頂きますよ」
そう言って警備員の鳩尾に拳を喰らわせ、気絶させる。
そして懐から爆弾を取り出してピンを抜き、それをコンテナに投げ付けた。
その次の瞬間、爆弾が炸裂し、爆発が起こった。

？？？
「な、なんだ！？」
？？？
「まさか、あいつらが！？」
その爆発に気付いたのは金色の鎧を纏った超進化人類“エヴォリュダー”に進化し、勇者王、ガオガイガーのパイロット、獅子王凱。
そして凱の親戚で、フランスの対特殊犯罪組織『シャッセール』のサイボーグ、ルネ・カーディフ・獅子王だ。
凱とルネは爆発があった方向へ走って行った。

～爆発地点～
？？？
「よいしょと。少し火薬が多すぎましたかねぇ」

爆弾を投げた者は先程の爆風で奪った服が吹き飛ばされ、その体はまるで人間の骨をロボットにしたような体をしていた。
その者は瓦礫の中から黒い物体、Qパーツを拾い上げる。

ルネ
「コンテナを爆破したのはあんたかい！？」

凱
「Qパーツを離せ！」

そこへ右手に翡翠色の短剣、“ウィルナイフ”を構えた凱と両手にマシンガンを持ったルネが駆け付けた。

？？？
「おやおや、貴方達でしたか。GGGの勇者王とシャッセールの子猫ちゃん」

そう言って振り向いた者の姿を見た2人は驚愕した。

凱
「お前は…ギムレット！」

凱とルネはその者、ギムレットを知っていた。
ギムレットは国際犯罪組織『バイオネット』の幹部であり、以前、香港で闘った事があったからだ。

ギムレット
「お久しぶり、と言いたい所ですが、残念ながら今は貴殿方に構っている暇はありません。ほな、さいなら～」

ギムレットがQパーツを抱えて逃げようとするが、それを巨大な黒い腕が弾き飛ばした。

ギムレット
「あれえええ！！」

ギムレットは吹っ飛ばされ、Qパーツを離す。
そのQパーツはルネがキャッチした。

???
『行かせないぜ！』

ギムレットを弾き飛ばした腕の正体、それは全身を不滅の超合金ニューZで固め、“神にも悪魔にもなれる”ロボット、鉄の城こと『マジンガーZ』。
その操縦者はマジンガーZを製作した兜十蔵博士の孫、兜甲児だ。

ギムレット
「マジンガーZ…邪魔をするとは、いけませんねぇ」

???
『マジンガーZだけでは無いぞ！』

ギムレット
「む！？」

ギムレットが声が響いた方向に視線を向けると、マジンガーZの兄弟機、偉大なる勇者こと『グレートマジンガー』が、その隣には超電磁を操る合体ロボ、『コン・バトラーV』と『ボルテスV』が、

反対側には磁石の力で合体し、銅鐸の力を操るロボット、『鋼鉄ジーグ』と先代ジーグこと『磁偉具』が、その隣には“野性”の力で闘い、地球全ての生き物のデータを保存したロボット、『ダンクーガノヴァ』がギムレットを取り囲むように佇んでおり、その後ろや上空にも他の起動部隊が展開していた。

???

『お前らが何を企んでいるかは知らんがこの偉大なる勇者、グレートマジンガーは黙っていない！』

???

『バイオネットの好きにはさせねえぜ！』

???

『大人しくお縄を頂戴して貰おうか！』

???

『ぶっ潰してやるぜ、ガイコツ野郎！』

???

『あたし達からは逃げられないわよ！』

上から順に、グレートマジンガーのパイロット、剣鉄也、コン・バトラーVのメインパイロット、葵豹馬、ボルテスVのメインパイロット、剛健一、鋼鉄ジーグのパイロット、草薙剣児、ダンクーガノヴァのメインパイロット、飛鷹葵である。

ギムレット

「……クックック…」

ルネ
「何が可笑しい！」

ギムレット
「私達バイオネットの狙いがQパーツだけとでも思ったのですか？」

凱
「なに！？まさか！？」

その瞬間、Gアイランドシティの各地で爆発が起こった。
各地には緑色のカラーリングで、左肩にはニードルが付いたシールドを装備し、右手にはビーム突撃銃を持ち、丸い頭部にはピンク色の1つ目、モノアイを灯らせたMS、『ザクウォーリア』多数が破壊活動を行っていた。

ルネ
「バイオネットのMS…！」

バイオネットは世界中の紛争地域に最新鋭の武器等を密売する事から別名『死の商人』とも言われている。

ギムレット
「良いんですか？放っておいたら貴殿方の街が破壊されてしまいますよ？」

ルネ
「この…ド外道がああああ！」

凱
「ルネ！」

ルネは激昂してマシンガンをギムレットに向け、乱射する。
だがギムレットはそれをジャンプしてかわし、更に背後からトゲの付いた車輪のようなものに捕まり、街の方へ跳び跳ねていった。

凱
「しまった！」

甲児
『凱さん！ザクは俺達がなんとかする！』

豹馬
『早くあいつを追い掛けてくれ！』

凱
「分かった！聞こえるか皆！俺達はギムレットを追い掛けるぞ！」

???
『了解！』

凱は通信装置を使って勇者ロボ軍団に指示を出し、ルネと共に街へ向かった。

その頃ギムレットはトゲ車輪に乗り、更に街の至るところから現れたトゲ車輪と共に市街地を駆け回っていた。
そこへ青と赤のビーム、竜巻、雷、メーザー砲、ミサイルが撃ち込

まれる。
だがギムレットとトゲ車輪は細かく動いてそれを回避した。

ギムレット
「この攻撃は…勇者ロボですね」

ギムレットの言う通りだった。
青と赤のビームはクレーン車とはしご車に変形する竜型ビークルロボ、『氷竜』と『炎竜』がライフルから放たれたもの。
竜巻と雷は中国製龍型ビークルロボ、『風龍』と『雷龍』のミキサーと雷龍が放ったもの。
メーザー砲とミサイルはフランス製竜型ビークルロボ、『光竜』と『闇竜』のメーザー砲とミサイルコンテナから放たれたものだった。
更にそこへ黄色のブーメランのようなものが2つ投げ付けられる。
それは忍者のようなマルチロボ、『ボルフォッグ』が投稿したブーメラン、“シルバームーン”だ。
だがギムレットはそれすら小刻みに動いてかわした。投稿されたシルバームーンが道路に突き刺さる。

凱
「観念しろ！ギムレット！」

更に現れたのは凱の相棒であり、緑の星で製造されたメカライオンとフュージョンし人型に変形したメカノイド、『ガイガー』だ。
腰のブースターを噴かしてガイガーが道路に着地する。
見ると、ギムレットの周囲は勇者ロボ軍団によって包囲されていた。

ギムレット
「ふむ…これは少し予定変更ですね」

そう言ってギムレットとトゲ車輪が跳び跳ねる。
そして周囲から新たに3つのトゲ車輪がギムレットに向かっていく。

ボルフォッグ
「あれは！凱機動隊長！あの車輪を見て下さい！」

ボルフォッグが3つのトゲ車輪を見るよう、凱に促す。
凱が見ると、3つのトゲ車輪には黒い物体が1つずつ装着されていた。

凱
「あれは！各国から奪われたQパーツ！？」

氷竜
「隊長！あれを！」

今度は氷竜に呼ばれ、氷竜が指差した方向を見ると、先程ルネがキャッチし、引き渡した筈のQパーツがまるで残りのQパーツの元へ向かうように飛んでいった。
そしてギムレットの乗るトゲ車輪の図上に集まった4つのQパーツは合体し、星の形をした物体となった。

凱
「なんだあれは！？」

ギムレット
「折角なので教えてあげましょう。これは『パスキューマシン』」

凱
「パスキューマシン？なんだそれは！？」

ギムレット
「貴方が知る必要はありません。何故なら、今から死ぬのですから！！」

そう言ってギムレットはパスキューマシンを頭上の装置に取り付ける。

ギムレット
「この品は有向的に使わせて貰いますよ～」

そう言うと、ギムレットのトゲ車輪の周りが銀色の膜のようなもので覆われ、銀色の球体のようになる。
更にギムレットの周りにいたトゲ車輪がまるで蛇のような形態になり、その蛇が針金人間のようになり頭部の部分に銀色の球体が合体し、そこへトゲ車輪が巻き付いて１つ目の頭部となった。

ギムレット
「ギムレットアバンアンプルーレ！！」

風龍
「合体してロボットになった！？」

雷龍
「マジかよ！？」

勇者ロボ軍団が驚愕している間にギムレットは既に次の行動に移っていた。

ギムレット

「更に！真の姿をとくとご覧あれ！」

ギムレットアバンアンプルーレが飛び上がり、そこへ街の至る所から多数のトゲ車輪が現れ、アバンアンプルーレに巻き付いていく。それによりアバンアンプルーレの姿は針金人間のような貧相な姿から白いボディのがっしりとした姿になっていた。

ギムレット
「ギムレット・アンプルーレ！！」

真の姿になったギムレットが市街地に降り立つ。

凱
「あの姿…ガイガーのままじゃ勝てる確率は薄い…だったら、ガオーマシン！！」

ギムレットの姿を見た凱が叫ぶと、上空から両側に巨大なブースターを装備したステルス戦闘機型の『ステルスガオー2』が飛来し、Gアイランドシティの鉄道路線を通って新幹線型の『ライナーガオー』がガイガーの付近の線路に駆け付け、ガイガーの背後の道路からは巨大なドリルを2つ付けた戦車型の『ドリルガオー』が道路をドリルで突き破って現れた。

〜オービットベース、メインオーダールーム〜
宇宙にあるワールド連合の本部、オービットベース。その司令室、メインオーダールームのコンピューターにガイガーからの『ファイ

ナルフュージョン』要請のシグナルが届く。
それに気付いたのはオペレーターである水色の髪に褐色の肌の女性、パピヨン・ノワールだ。

パピヨン
「総司令、ガイガーからファイナルフュージョン要請のシグナルが届いています」

パピヨンが後ろに立ち、モニターを凝視している金髪の男性、ワールド連合の総司令官、大河幸太郎にガイガーからシグナルが届いた事を報告する。

大河
「よし！ファイナルフュージョン！承認！！」

大河が叫びながら承認し、承認した事をパピヨンがキーボードを操作してそれは電波となって送信された。

～Gアイランドシティ、上空、ツクヨミ～
Gアイランドシティの上空に待機しているディビジョン艦、『ツクヨミ』にファイナルフュージョンが承認された事が届いた。

？？？
「おっし！卯都木！」

それを確認し、凱の恋人でありオペレーターでもある女性、卯都木命に指示を飛ばしたのは作戦参謀の火麻激だ。

命
「了解！ファイナルフュージョン！」
それを承った命がキーボードを操作する。
命
「プログラム！ドラァァァイブ！！」
その声と共に命はキーボードの横のカバーに覆われているボタンを上のカバーごと叩き割り、押した。

～戦闘区域～
凱
「よっしゃあ！」
ファイナルフュージョンの許可が下りた事を確認した凱が腰のブースターを噴かし、舞い上がった。
凱
「ファイナル！フュゥゥゥジョォォォォォォン！」
ガイガーの腰から電磁竜巻が発生し、その中に3機のガオーマシンが突っ込んだ。

ギムレット
「いけませんねぇ…」
それを見たギムレットが身構えたが、勇者ロボ軍団がその前に立ち塞がった。
炎竜
「やらせはしねえぜ！」
闇竜
「炎竜兄様の言う通りです！」
光竜
「ガイガーの邪魔はさせないんだから！」
葵
『炎竜達の言う通りよ！』
更にギムレット・アンプルーレの周囲にマジンガーZ、グレートマジンガー、コン・バトラーV、ボルテスV、鋼鉄ジーグ、ダンクーガノヴァが降り立った。
ギムレット
「まさか！もうザクを全滅させたのですか！？」
剣児
『へっ！あの程度で俺達を止められると思ったのかよ！』
剣児が鼻を鳴らしながら答える。
その間に電磁竜巻の中から両足にドリルガオー、両肩にライナーガ

オー、背部にステルスガオー2が合体し、兜のようなものを被った頭部となっているガイガー、いや、勇者王『ガオガイガー』が姿を現した。

凱
「ガオ！ガイッ！ガァァァァァァッ！！」

合体し、スターガオガイガーが降り立ち、ギムレット・アンプルーレと対峙した。
～ナレーションＳＩＤＥＯＵＴ～

～捷也ＳＩＤＥ～
今僕はＧアイランドシティの上空に待機し、様子を見ている。
ファントムガオーは特殊光学迷彩『ファントムミラージュ』を展開している為、周りからは見えない。

捷也
「ガオガイガーに合体して対抗したか…」

モニターを見ながら僕は呟く。

ファントムガオー
『マスター、如何致しましょう？』

捷也
「まだ待機だ。もう少し様子を見る」

ファントムガオー

『了解』

そして僕はモニターに視線を戻した。

第1話　謎の欠片（後書き）

次回予告
第2話　降臨！もうひとつの勇者王！
お楽しみに！

『ガオファイガー』
これが勝利の鍵だ！

第2話　降臨！もうひとつの勇者王！！

～ナレーションＳＩＤＥ、ツクヨミ～

火麻
「ディバイディングドライバー！！射出っ！！」

ツクヨミの司令室に火麻の大声が響き渡る。

命
「了解！」

その指示を受け取った命がキーボードを操作すると両横からボタンがついた装置が出現した。

命
「座標軸固定！」

必要なデータを入力する命。

命
「ディバイディングドライバー、キットＮｏ．０３！」
ツクヨミの両翼にあるカタパルト、その右翼のカタパルトには射出するツール、『ディバイディングドライバー』のマイナスドライバーのような部分が、左翼のカタパルトには連結する部分であるオレンジ色のパーツが射出体勢に入っていた。
その２つに銀色の膜、『ミラーコーティング』が施され、浮遊する。

命

「イミッショォォォォン！！」

ファイナルフュージョンの時と同じ要領で命は右拳で横のボタンを叩き押した。反動で命の座る座席が前に移動する。
右翼カタパルトからマイナスドライバーのようなパーツが射出され、中央で直角に曲がり、大空へ射出され、左翼カタパルトからはオレンジ色のパーツが少し遅れて射出され、直角に曲がり、大空へと躍り出た。
２つのパーツは途中で合体し、ツール『ディバイディングドライバー』となって大空を駆け抜けていった。

凱
「うおおおおお！」

上空に舞い上がったスターガオガイガーが飛来したディバイディングドライバーに向かっていく。
ディバイディングドライバーの後ろについたガオガイガーは左腕を突き出し、ディバイディングドライバーが左腕に合体した。

凱
「ディバイディング！ドライバァァァァァ！！」

ディバイディングドライバーの先端にエネルギーが集まり黄金色に輝く。
そのまま凱は急降下し、ディバイディングドライバーを思い切り道路に突き立てた。
その瞬間、チャージされていた湾曲エネルギーが解放され、そこか

ら湾曲エネルギーがまるで線を引くように真っ直ぐに走っていく。
そこから湾曲エネルギーが広がり、真っ直ぐに走ったエネルギーを中心に地面が割れた。

ギムレット
「ぬおおおお！？」

ギムレット・アンプルーレが落下する。
湾曲エネルギーが広がり終えた後には円型の空間、『ディバイディングフィールド』が形成されていた。

ギムレット
「これが噂のディバイディングフィールド…」

落下したギムレットが立ち上がる。
その視線の先にブースターを噴かし、着地するスターガオガイガー。
それに続くようにマジンガーZ、グレートマジンガー、コン・バトラーV、ボルテスV、鋼鉄ジーグ、ダンクーガノヴァが降り立ち、フィールドの周りには勇者ロボ軍団がギムレットが逃げ出さないように位置についていた。
（その他の機動部隊はバイオネットのMSが来た方向にバイオネットの秘密基地ががあると睨み、偵察の指令を受け向かっている。）

凱
「勝負だ！ギムレット！！」

左腕のディバイディングドライバーを分離し、ギムレットと対峙する凱。

ギムレット

「いけませんねぇ…」

ギムレットが身構え、それに呼応するように凱達も身構える。

凱

「行くぞ！」

先に仕掛けたのは凱だ。

背部に合体しているステルスガオー２の右ブースター上部に装備されている４つの突起がついたリングが分離する。

そのリングに凱は右腕を通した。

凱

「ファントムリング！プラス！」

声と共に右腕とファントムリングがそれぞれ違う方向に回転し、エネルギーがチャージされ、右腕は赤く、ファントムリングは黄色に輝く。

凱

「ブロウクン！ファントムッ！！」

声と共に右腕は勢い良く突き出され、発射された。

リングを纏った回転する右腕、ブロウクンファントムがギムレット・アンプルーレに一直線に向かっていく。

だが、その拳はギムレット・アンプルーレには届かなかった。

その直前に展開された漆黒のバリアのようなものがブロウクンファントムを防ぎ、弾き返した。

凱

「なに！？」
凱は戻ってきた右腕を回収しながら驚愕した。
凱
「今のバリア…まさかお前！」
ギムレット
「その通り！私達バイオネットは悪魔と手を組み、悪魔の力を手に入れたのです！」
その言葉を聞いた凱は先程のバリアが何なのか分かった。
それは悪魔達が使える防壁、通称“Ｄバリア”。
本来なら悪魔達しか使えないのだが、悪魔達から力を貰う事により、使用する事が出来るのが特徴で、実弾、ビーム兵器、魔法といったあらゆる攻撃を防ぐ事が出来る防壁だ。
このバリアを破るには悪魔の攻撃、もしくはバリアを破壊する程の圧倒的攻撃力でぶち破るしかない。
だが、それ程の攻撃力をもった者はワールド連合には１０人ちょっとしかいない。
現時点では凱のスターガオガイガー、剣児の鋼鉄ジーグ、葵達のダンクーガノヴァがそれに入るが、その攻撃はどれもエネルギー等の消費等が多く、ジーグとダンクーガの攻撃は協力する相手が居ない為、現時点では使用不可能。
凱の攻撃も隙が出来てしまうので下手に攻撃が出来なかった。
その時、ギムレット・アンプルーレの右腕が変形して砲口となり、その砲口を凱達に向けた。
ギムレット
「このギムレット・アンプルーレはパーツの入れ換えにより、２３

種類の特殊能力を使用できるのです！！」

ギムレットが説明する間に砲口にエネルギーがチャージされていく。

ギムレット
「その１、エクスプロジオンレオン！」

そう言うと、右腕の砲口から荷電粒子砲が発射された。

凱
「ウォールリング！プラス！」

凱は左ブースターの４つのへこみが付いたウォールリングを分離し、そのリングに左腕を通し、構える。

凱
「プロテクトウォォォォルッ！！」

空間を湾曲させ防壁を発生させ荷電粒子砲を防ごうとする凱。
それにより荷電粒子砲は一度は突進を阻まれたが、荷電粒子砲の出力が勝り、プロテクトウォールを突き抜けてガオガイガーの装甲に直撃した。

凱
「ぐあああああっ！」

甲児
「凱さん！この野郎！」

吹っ飛ばされる凱。

それを見た甲児はマジンガーZを攻撃体勢に移行させた。

鉄也
「兜！準備は良いな！？」

剣児
「俺もやるぜ！甲児！」

甲児
「よし、行くぞ！ブレスト！ファイヤァァァッ！！」

鉄也
「ブレストバァァァンッ！！」

剣児
「スピンストォォォムッ！！」

マジンガーZとグレートマジンガーの放熱版から強力な熱線、ブレストファイヤーとブレストバーンが、鋼鉄ジーグの腹部の砲口から黒い竜巻、スピンストームが放たれた。
だが、２つの熱線と１つの竜巻はDバリアによって防がれる。

甲児
「今だ！」

鉄也
「豹馬！健一！行け！」

豹馬
「おうよ！」

健一
「任せろ！」
甲児と鉄也に応えた豹馬と健一。
２人の機体、コン・バトラーＶとボルテスＶはギムレット・アンプルーレの後ろに回り込んでいた。
豹馬
「グランライトウェーブレール！発射！」
健一
「天空ゥ剣！」
コン・バトラーＶの胸からギムレット・アンプルーレに向けて一直線に磁力がひかれ、コン・バトラーＶが戦車のような形態に変形する。ボルテスＶは胸のパーツから出た柄を握り、パーツを外す。すると柄から両刃の刀身が出現し、天空剣となった。
豹馬
「健一！乗れ！」
健一
「よし！」
磁力のラインを走る戦車形態となったコン・バトラーＶにボルテスＶが飛び乗り、ギムレット・アンプルーレに突進していく。
豹馬、健一
「「グランダッシャー天空剣！！」」

言い終わると同時に、ボルテスＶが飛び上がる。

豹馬
「喰らえ！グランダッシャー！！」

そのままコン・バトラーＶがギムレット・アンプルーレにぶち当たる。
だがバリアは破れない。

豹馬
「健一！ぶった切れ！」

健一
「おう！」

飛び上がったボルテスＶが天空剣を両手で構える。

健一
「天空剣！一文字斬りぃぃぃぃ！！」

そのままボルテスＶが急降下し、振り上げた天空剣を思い切り叩き付けた。
バリアと天空剣の接触地点から火花が散り、ヒビが入る。

健一
「よし！このまま行けば！」

ギムレット
「なんだと言うんですか？特殊能力その６、オルティネイドブラス

テイカー！！」

ギムレットがそう言うと、全身から砲口が出現し、数えきれない程のミサイルが放たれた。

健一

「なに！？うわあああああ！」

豹馬

「うわああ！」

ミサイルはボルテスＶとコン・バトラーＶに直撃し、マジンガーＺ、グレートマジンガー、鋼鉄ジーグ、スターガオガイガー、更に勇者ロボ軍団にも襲い掛かった。

一同

『うわあああああああああああああああああ！！！』

葵

「皆！」

？？？

「畜生！よくもやりやがったな！」

そう言ったのはダンクーガノヴァの左足を構成するノヴァライノスのパイロット、加門咲哉だ。

？？？

「私達も行くわよ、葵！」

？？？

「いつまでも見ている訳にはいきません！」

それに続くは前者が右足を構成するノヴァライガーのパイロット、館華くらら、後者が胴体、両腕、下半身を構成するノヴァエレファントのパイロット、ジョニー・バーネットである。

葵

「了解！一気に行くわよ！断空剣！！」

ダンクーガノヴァの左足のハッチが開き、そこから金色の柄が射出され、それを空中でキャッチする。
すると、先端が割れてそこに光が収束し、銀色に輝く両刃の刀身が現れた。

葵

「はあああああ！」

かかとと背面のブースターを噴射させ、断空剣を振り上げながらダンクーガノヴァが突進する。

葵

「断空斬！！」

剣の間合いに入ったところで葵は思い切り断空剣を振り下ろす。
しかしその一撃もＤバリアによって防がれてしまう。

ギムレット

「おやおや、ワールド連合のお方が不意討ちとは、いけませんねぇ」

葵

「あんたみたいな犯罪者に言われたくないわよ！！」

そのまま連続で斬りつける葵。

ギムレット
「無駄です。いくらダンクーガと言えど、このＤバリアを破る事は出来ません」

葵
「うるさい！やってみなきゃ分かんない事だってあんのよ！！」

より激しさを増した連撃を叩き込む葵。
だが依然としてギムレットにダメージを与えた様子は無かった。

ギムレット
「やれやれ…しつけがなっていない獣には……お仕置きをしないといけませんねぇ！！」

ギムレットは斬りつけるダンクーガの頭部を掴み、持ち上げた。

葵
「ちょっ！何すんのよ！離しなさいよ！！」

ダンクーガがひたすら抵抗する。

ギムレット
「特殊能力、その２」

そう言うとギムレット・アンプルーレの両肩から避雷針のようなものが現れ、電撃が散る。

ギムレット
「コロッサルコンビュステイブル！！」
そう言うと、ギムレット・アンプルーレが放電し、強烈な電撃がダンクーガを襲った。
４人
『うわあああああああああ！！！』
葵達に全身の皮膚が爆ぜるような痛みが襲い掛かり、ダンクーガノヴァの各所から小爆発があがる。
放電を止めたギムレットがダンクーガを掴んでいた手を放すと、ダンクーガは糸が切れた人形のように崩れ落ちた。
ギムレット
「ワールド連合のロボットを倒したとなれば…世界中の紛争地域からバイオネットに注文が殺到する事でしょうな！特殊能力その１５、サティウスホルクレッドソーディル！！」
そう言うとギムレット・アンプルーレの右腕が荷電粒子砲ではなく、鋭利な剣に変形し、それを振り上げる。
葵
「う…はっ！」
葵が気付いた時には剣は既にダンクーガノヴァの頭部目掛けて振り下ろされていた。
凱

「葵！」

凱を始めとするメンバーが助けに行こうにも間に合わない。

葵

「うっ！」

葵は咄嗟に目を閉じる。

ギムレット

「終わりです！ダンクーガ！！」

だが、剣がダンクーガノヴァの頭部に炸裂する前にギムレットは何者かに吹っ飛ばされた。

ギムレット

「おわあああ！？」

吹っ飛ばされるギムレット。

葵

「…え？」

いつまで経っても何も起こらない為、葵は目を開く。そこには葵が見た事のない銀色のロボットが立っていた。

葵

「な、何？」

ギムレット

「な、何者ですか、貴方は！？」

立ち上がったギムレットが銀色のロボットを見て驚愕した。
そのロボットの額には緑色の宝石、Ｇストーンがあった。
～ナレーションＳＩＤＥＯＵＴ～

～捷也ＳＩＤＥ～
数分前…

捷也
「おいおい、マジかよ…あんな武器まであったのか…？」

モニターにはギムレット・アンプルーレの全身からミサイルが放たれ、マジンガーＺ達や勇者ロボ軍団に直撃した。
そこへダンクーガノヴァが断空剣で斬り掛かるが、バリアで防がれ、ギムレット・アンプルーレがダンクーガを掴んで電撃を浴びせた。

捷也
「…こいつはまずいな。ファントム」

ファントムガオー
『なんでしょうか？』

捷也
「行くぞ」

ファントムガオー

『了解。ファントムミラージュ解除』

ファントムガオーの言葉を聞いた僕はコックピットのハッチを開け、外に出た。

捷也
「フュージョンッ！」

その言葉と共に僕は飛び上がる。
ファントムガオーのハッチが開き、そこへ僕が入り、ファントムガオーが変形して人型になる。

捷也
「ガオファー！！」

僕はファントムガオーとフュージョンし、戦闘用メカノイド、ガオファーとなった。
ガオファーの腰のブースターを噴射して僕はギムレット・アンプルーレに突進する。
敵機は既に右腕を剣に変形して、それをダンクーガノヴァに振り下ろそうとしていた。

捷也
「やらせるかあああああ！！」

ブースターを最大出力にして突進し、そのままギムレット・アンプルーレに体当たりを喰らわせて吹っ飛ばした。
そのまま僕は倒れているダンクーガノヴァの前に着地する。

ギムレット

「な、何者ですか、貴方は！？」

吹っ飛ばしたギムレットが立ち上がりながら僕に言う。

ギムレット

「何者かは知りませんが、邪魔をするのならば容赦はしません！！」

ギムレットはそのまま右腕の剣を振りかざしてガオファーに突進する。

捷也

「ファントムクロー！！」

それを両腕の爪、ファントムクローを展開してクローにエネルギーをチャージしながら迎え撃つ。

振り下ろされた剣をかわし、エネルギーがチャージされた事によって虹色に輝くファントムクローを振り下ろした。

すると、展開したDバリアを意図も簡単に引き裂いた。

ギムレット

「な、なんと！？」

捷也

「おりゃあああああ！！」

そこへ左腕のファントムクローを突き立て、ギムレットを張り倒した。

ギムレット

「うおおおお！？」

盛大に倒れるギムレット。

捷也

「今だ！ガオーマシン！」

飛び上がり、僕は指示を出した。

～捷也ＳＩＤＥＯＵＴ～

～ナレーションＳＩＤＥ、異次元ルーム、格納庫～

異次元ルームの格納庫では捷也からの指令を受け、格納庫がカタパルトに変形し、ガオーマシン３機が射出用の台座に乗った。

そしてライナーガオー２が射出され、異次元カタパルトに入る。

次に、台座がスライドし、異次元カタパルトの正面に移動したステルスガオー３が射出され、更に台座がスライドし、最後にドリルガオー２が射出された。

～Ｇアイランドシティ～

突如上空に、異次元ゲートが開き、ライナーガオー２、ステルスガオー３、ドリルガオー２が飛び出し、ガオファーに向かっていく。

捷也

「ファントム！Ｆ・Ｆシステム作動！」

ファントムガオー
『了解！Ｆ・Ｆシステム、作動します！』

捷也
「ファイナル！フュージョォォォン！！」

その言葉と共に、ガオファーの腹部のハッチが開き、電磁竜巻が放出され、それがガオファーを取り囲む。その電磁竜巻に３機のガオーマシンが突っ込んでいき、ガオファーの腹部から放出された３つのリングにそって飛び交う。
そして、合体が開始した。ガオファーの下半身が百八十度回転し、足の先端が折り畳まれ、垂直になったドリルガオー２の先端の部分が開き、ガオファーの足が挿入されロックされる。
次にガオファーの両腕が背後に移動して肩のパーツが上に移動する。それにより出現した空洞にロケットブースターを切り離し、ライナー形態となったライナーガオー２が滑り込んだ。
背面にはステルスガオー３が合体し、ガオファーの肩のパーツが胸に合体して胸のアーマーとなり、開いていた腹部が二重ハッチによって閉じられる。
ステルスガオー３の両翼のポッドが肩となったライナーガオー２から下りてきたパーツと合体し、ハッチが開いて中から拳が回転しながら出現し、腕となる。
ガオファーの頭部にステルスガオー３に格納されていた兜が合体し、マスクが閉じて２つの目に光が灯り、最後に勇者の証であるＧストーンがせり上がった。

捷也
「ガオッ！ファイッ！！ガァァァァッ！！！」

今ここに、もうひとつの勇者王、ガオファイガーが降臨した。

ガオファイガーは背部のステルスガオー3の一部、ウルテクウイングを展開し、緑色に染まった翼と、ブースターを噴射して着地した。

ギムレット
「ガオガイガーがもう一体！？ワールド連合め！こしゃくな真似をしてくれますねぇ！！」

ギムレットはそう言ってガオファイガーに突っ込む。捷也もギムレットに突っ込んでいった。

捷也、ギムレット
「「うおおおおおおおおおおお！！」」

2つの巨人が互いに拳を組み合った。

捷也
「でやあああああ！」

その状態で捷也は、ガオファイガーの出力を上げ、ギムレット・アンプルーレの拳を握り潰した。

ギムレット
「な！？」

捷也
「ぶち抜けえぇぇぇぇ！！」

そこから間髪入れず、膝蹴りの要領で膝のドリルニー2をぶちかました。
4つの関節ごとに違う回転をし、フィンが付いたドリルがギムレッ

トの胴体に深々と突き刺さり、そのまま文字通り風穴を開けた。

ギムレット
「ぬうううっ！」

ギムレットは一旦距離を取って体の破損部分を再構成し、右腕を荷電粒子砲に変形させてそれを発射した。

捷也
「プロテクトシィィィィルド！」

それを捷也は左腕を構え、空間を湾曲させて形成した盾、プロテクトシールドを展開し、防ぐ。
更に荷電粒子砲のエネルギーを星形に変え、反射した。
エネルギーの星がギムレットに命中し、爆発が起きる。

捷也
「来い！エレメントソード！！」

そう言うとガオファイガーの右手に光が集まり、青と白の柄と鍔、更に鍔の中央に虹色のクリスタルがはめ込まれ、長大な両刃の刀身の剣が現れ、右手におさまった。

捷也
「はあああああ！」

それを構えてブースターを噴かし、接近する捷也。
爆発をDバリアで防いだギムレットも右腕を剣に変え、迎え撃った。
２つの剣がぶつかり合い、火花が散る。
だが捷也は一瞬の隙をとらえ、ギムレット・アンプルーレの右腕を

斬り飛ばした。
そこでギムレットは再び距離を取り、斬り飛ばされた右腕は一旦トゲ車輪に分離し、再度合体して右腕を形成した。

ギムレット
「特殊能力その１９！シュプスタンスエクスキュゼモワ！！」

そう言うと、ギムレット・アンプルーレが戦車形態に変形し、ボディの大半からなる左右の巨大ミサイルを発射した。
だが、そのミサイルはエレメントソードによって両断され、爆煙と化した。
それを見たギムレットがたじろぎ、その隙に捷也はエレメントソードを収納してガオファイガーの両腕を構えた。

捷也
「ヘル！アンド！ヘブン！！」

構えた両腕の内、右腕に攻撃の力がチャージされて赤く輝き、左腕に防御の力がチャージされて青く輝く。

捷也
「ゲム・ギル・ガン・ゴー・グフォ…はあっ！」

ガオファイガーが、反発し合うエネルギーがチャージされた腕を組むと、全身が緑色になり、電磁竜巻が発生してギムレット・アンプルーレを拘束する。

捷也
「うおおおおおおおおおおおおおお！！！！」

背面のブースターを噴射して、ガオファイガーが一直線に突進していく。
そして、ギムレット・アンプルーレの頭部にガオファイガーの両拳が直撃し、深々とめり込んだ。

捷也
「せいやあああああ！」

そのまま頭部から銀色の球体、パスキューマシンが装着され、ギムレットの乗ったトゲ車輪を引きずり出した。

ギムレット
「いけませえぇぇぇぇぇぇぇぇん！！」

ギムレットの叫びも空しく、コアを失ったギムレット・アンプルーレは大爆発を起こした。

ギムレット
「お願いです！悔い改めます！！だから、どうか命だけは助けて下さい！！」

今、ガオファイガーの右拳の上にはパスキューマシンとガオファイガーに向かって土下座をし、命乞いをしているギムレットが居た。
だが、捷也が何か言う前にギムレットは飛び降り、逃走した。
だが、彼の先に待ち構えていたルネがバズーカを発射し、体を粉砕。
残った頭も足で踏み砕かれた。

ルネ
「害虫駆除、完了」
そう言ったルネはガオファイガーを睨み付ける。
ルネ
「ギムレットを倒してくれたのは礼を言うけど、私達としてはあんたを放っておく訳にはいかないんだよ！！」
そう言ってルネはバズーカをガオファイガーに向け、構える。
更にダメージから回復した凱達も構えていた。
捷也
「……」
そんな中、捷也はルネに向かってガオファイガーを向かわせる。
身構えるルネ。
だが、ガオファイガーは屈んでルネの手前にパスキューマシンの乗った右拳を差し出した。
ルネ
「え？」
ガオファイガーの思いもよらない行動にルネは戸惑う。
捷也
「これは貴女方に必要な物なんでしょう？持っていって下さい」
ルネ
「…良いのかい？」

捷也
「当たり前ですよ。僕には必要の無い物ですから」
そう言うと、ルネは少し躊躇いつつもパスキューマシンを手にとった。
それを確認した捷也は立ち上がりウルテクウイングを展開する。
凱
「待て！お前は一体何者だ！？そのロボットはどうした！？」
それを凱の声が阻んだ。
捷也
「…1つ言っておきましょう、ガオガイガー」
凱
「なに？」
ガオガイガーの方を向いた捷也は言い放った。
捷也
「こいつはガオガイガーの兄弟機であり、もうひとつの勇者王」
凱
「なんだと！？」
その言葉に凱を始め、一同が驚愕する。
捷也

「その名を、ガオファイガーだ」

そう言うとガオファイガーはブースターを噴かして舞い上がる。

凱

「待て！」

捷也

「いずれまた会いましょう。それでは」

そう言ってガオファイガーは一気に加速して舞い上がり、目の前の空間に虹色のビームを放って異次元ゲートを形成してゲートに飛び込んだ。

そしてゲートは瞬く間に閉じてしまった。

凱

「ガオファイガー……お前は一体何者なんだ…？」

凱達は、ガオファイガーが異次元ゲートに飛び込んだ空間を凝視していた。

第2話　降臨！もうひとつの勇者王！！（後書き）

次回予告

第3話　邂逅する星の勇者お楽しみに！

『エレメントナイトフォーム』

これが勝利の鍵だ！

第3話　邂逅する星の勇者

～ナレーションＳＩＤＥ～
異次元ルームに帰艦した捷也はガオファイガーからフュージョンアウトし、コンピューターでデータを整理していた。
捷也はモニターに向かい、キーボードを操作している。

捷也
「……」

無言でモニターのデータを観覧する捷也。
そんな彼の首筋にくすぐったい感触が伝わった。

捷也
「？……イヅナか。どうしたんだ？」

その正体はイヅナだった。

イヅナ
「捷也～」

甘えた声でイヅナは捷也にすり寄った。

イヅナ
「最近ちっとも我の相手をしてくれぬから辛いのだ～」

捷也
「相手って…お前なぁ…」

そう言うとイヅナは捷也に強く抱き付いた。
それを見た捷也は溜め息をつき、イヅナの頭を撫でた。

捷也
「分かった分かった。今晩やってやるから」

イヅナ
「本当か！約束じゃぞ！」

捷也
「ああ。約束だ」

そう言って2人は指切りを交わした。
指切りが終わるとイヅナは何故か捷也の膝の上に座っり、「ここにいる！」と言って聞かない為、仕方なくそのままの状態で作業を続行したのだが、たまにイヅナの尻尾が腕や首を刺激し、イヅナ自身がすり寄ったりして気もそぞろになる。それを堪えながら、彼は作業を続行した。

～次の日～
翌日、目が覚めた捷也は格納庫に向かい、更に格納庫のガレージエリアに向かった。

捷也
「ファントム、“あいつ”の状況は？」

ファントムガオー
『はい、フレームと装甲、動力源は既に完成し組み立て作業に入り

ました。ＡＩの教育も最終段階に入り、完成まであと１０日程かと』

捷也

「そうか、ありがとう」

そう言って捷也が目を向けた先には、白い装甲の戦車のようなものが組み立てられていた。

～オービットベース、メインオーダールーム～

開発中のコロニーを改造して作られた基地、オービットベースのメインオーダールームでは空気が張りつめていた。

メインオーダールームにいる全員がモニターを凝視している。

そのモニターにはガオファーやガオーマシン、更にガオファイガーが映し出されていた。

大河

「皆に集まって貰ったのは他でもない。先日現れた、このロボットについてだ」

大河が言うと、開発部の獅子王雷牙が続けた。

雷牙

「このロボットは見ても分かるようにガオガイガーとよく似た姿や武器を持っておる。しかもＤバリアを意図も簡単に突き破る程の強さを持っておるんじゃ」

その言葉を聞いた凱達を除いた一同がざわめく。

ちなみに今居るのは、
大河、雷牙、凱、命、ルネ、更に緑の星の指導者、カインの息子であるラティオこと、天海護、凱のライバルであり、赤の星の戦士のソルダートＪ、護を元にして作られたアルマこと、戒道幾巳、更に各機動部隊の隊長である猿渡ゴオ、光明司凱、Ｆ．Ｓ、スメラギ・李・ノリエガ、八神はやてとそのユニゾンデバイスであるリインフォース２、シモン、兜甲児、サンドマン、ツナシ・タクトである。

凱
「こいつの名前はガオファイガー。そう言っていた」

ゴオ
「ガオファイガー…か。見れば見るほどガオガイガーにそっくりだな」

はやて
「せやな。胸のギャレオンと細かい所以外は瓜二つやな」

雷牙
「凱、確かガオファイガーはガオガイガーの兄弟だ、と言っていたんじゃな？」

凱
「ああ。もうひとつの勇者王とも言っていた」

Ｊ
「という事はこのガオファイガーとやらも緑の星で作られたものという事か」

護

「それは違うと思う」

J

「何？」

Jの意見を否定した声の主、それは護だった。

戒道

「ラティオ、それはどういう意味だい？」

護

「だって…僕はこのガオファイガーってロボットの事、知らないんだ」

一同

『ええっ！？』

その言葉に、一同は驚愕した。

スメラギ

「護君、本当に何も知らないの？」

甲児

「カインから何か聞かされたりしてないのか？」

その問い掛けに護は首を横に振り、否定した。

護

「それに…あのロボットからはなんだか不思議な感じがしたんだ」

凱
「不思議な感じ？」

護
「うん……あのロボットからはGストーンの感じがしたんだけど、凱兄ちゃんやルネさん、ガオガイガーや勇者ロボ軍団の皆から感じるGストーンとは違う感じがしたんだ。まるでGストーンなんだけどGストーンじゃないような…」

シモン
「なんだそりゃ？」

リイン
「よく分かりませんね～」

護
「しかも、Gストーンとは別に全く違う力をガオファイガーからは感じたんだ。Gストーンを遥かに越えるような、とても大きな力のような感じの力を」

タクト
「ようするに、このガオファイガーって言うロボットはとてつもない力を秘めているって事かな？」

護
「多分そうだと思う」

大河
「とりあえず、我々に出来る事は闇人類や悪魔に立ち向かう事だ。そしてもしこのガオファイガーというものがまた現れたらその時は

コンタクトを取る事とする」

一同

『了解』

～10日後、異次元ルーム～

異次元ルームのガレージエリアには細長い筒のようなものが後部から斜め上に向かって伸びているパーツがあり、車のようにタイヤが4つ付いた白い戦車があった。その戦車に目を向けているのは捷也、イヅナ、龍鬼とその横に居るファントムガオーだ。

イヅナ

「こいつが捷也が言っていた新しい仲間か？」

捷也

「ああ。名前は『ゴルディマーグMk2』だ。」

ゴルディMk2

「これからよろしくな、捷也！」

龍鬼

「捷也、こいつは何に使うんだ？」

ゴルディMk2をまじまじと見つめる龍鬼が捷也に尋ねる。

捷也

「ゴルディMk2は単体でも闘えるマルチロボだ。それにガオファ

イガーの武器に変形する事も出来る」

龍鬼
「すげぇ…」

ファントムガオー
『マスター、そろそろ時間ではないのですか？』

ファントムガオーの言葉を聞いた捷也が愛用している白い携帯電話を取り出し、時間を見た。

捷也
「そろそろ頃合いだな。よし！ファントムガオーとゴルディＭｋ２は待機していてくれ」

ゴルディＭｋ２
「了解だぜ！」

ファントムガオー
『了解』

捷也
「イヅナと龍鬼はついてきてくれ」

イヅナ
「分かったのじゃ！」

龍鬼
「任せろ！」

そう応えたイヅナと龍鬼が輝き、龍鬼はアスラに、イヅナはスタークリスタルに戻っていった。

捷也
「そんじゃ、行くとするか」

そう言った捷也が目を閉じ、意識を集中する。
すると、右手が虹色に輝きだし、それを構えると虹色光が彼の目の前の空間を切り裂き、異次元ゲートを形成した。
そのゲートに目を開けた捷也は飛び込んだ。

〜ネオワールドシティ、郊外〜
ネオワールドシティの人通りの少ない所に突如として異次元ゲートが現れ、その中から捷也が飛び出した。捷也が飛び出した後、異次元ゲートは閉じて元の空間に戻る。

捷也
「さーて、探検といくか」

そのまま捷也は移動を始めた。

〜3時間後〜
一通り、ネオワールドシティを見回った捷也はベンチに腰掛け、休憩をとっていた。

捷也
（多次元銀河系になってからかなり時間が経ってるからな。上手い具合に世界が融合している。だけど…）
心の中で呟く捷也。
その時、彼の頭に電流が流れたような感覚が走った、

捷也
「…！この感じは…」

咄嗟に捷也は立ち上がる。その瞬間、ネオワールドシティにアナウンスが流れた。

アナウンス
『市民の皆様へ。只今より、第一種戦闘体制がしかれました。至急、近隣のシェルターに避難して下さい。繰り返します…』

そのアナウンスが流れると、周囲の至るところにシェルターへの入り口が開かれ、市民が避難していく。
それを誘導するワールド連合のDランク隊員。
捷也は人混みに紛れ、物陰に身を隠した。
そして、全ての市民と隊員がシェルターに避難したのを確認した彼は、物陰から姿を現した。

捷也
「おいでなすったな…」

捷也が見上げる視線の先には黒色の体に手足からは鋭利な爪が、背中からはコウモリのような漆黒の翼が生え、頭からは二本の角が生えている生物、悪魔がいた。

それも一体や二体ではなく、ざっと見て五十体はいた。
その時、ネオワールドシティの周囲の装置が作動し、ネオワールドシティを包み込む膜のようなものを展開した。

捷也
「こいつは…光子力の巨大ネットか…成る程、こいつで悪魔の進入を防ぐって訳か」

だが、捷也の予想は大きく外れた。
飛来する悪魔達が紫色の膜のようなものを展開し、ネットに向かっていく。
そしてそのまま、光子力ネットを突き抜け、ネオワールドシティに進入した。
それを見た捷也は思わずずっこけた。

捷也
「うぉい！ネットの意味ねえじゃねえかぁぁぁぁ！！」

ツッコミを叫ぶ捷也だったが、悪魔の迎撃をする為にワールド連合のCランク隊員が近付いてきたのに気付いた捷也は再び、物陰に身を隠した。
降り立つ悪魔に、Cランク隊員が杖のようなものを構え、魔力の弾を生み出し、撃ち出した。
だが、その魔力弾は悪魔が展開しているDバリアによって防がれる。
それに怯まず、隊員は攻撃を続ける。

悪魔A
「光人類が…うっとおしいんだよ！！」

悪魔の一体が手に紫色の光剣を出現させ、それを握り、攻撃を続け

る隊員に突っ込んだ。
攻撃を全てDバリアで無効化し、隊員に向かって悪魔は光剣を振り下ろした。
隊員は防御魔法で防ごうとしたが、光剣によって破られ、そのまま一閃され、倒れ込んだ。
それを機に、他の悪魔達はネオワールドシティの至るところに散っていき、隊員や建物に攻撃を加えていく。
捷也の目の前で闘っていた隊員達も、悪魔達に倒されてしまった。

捷也
「こりゃ不味いな…」

その光景を見ていた捷也が呟く。

捷也
「よし、行くか！フォームアップ！エレメントナイト！！」

その言葉と共に、スタークリスタルが輝き、その輝きの中から両耳の部分に後ろの斜め上を向いたブレードアーマーが装着され、白を基調とした鎧を纏い、右手には虹色のクリスタルがはめ込まれた両刃の剣、エレメントソードを構えた捷也が居た。

捷也
「ヘッドアーマー、展開」

そう言うと、捷也の頭に光が集まり、顔面を残してアーマーが形成された。

捷也
「フェイスアーマー、展開」

そう言うと今度は、バイザーのようなものが目の部分まで下り、ヘッドアーマーの左右からマスクが展開され、バイザーにツインアイが灯り、まるでロボットのような外見になった。
そして捷也は物陰から移動し、大胆にも悪魔達の目の前に現れた。

悪魔B
「なんだてめえ？光人類か？」

捷也に気付いた悪魔が捷也の方を向いた。

捷也
「だとしたら？」

悪魔B
「死ねえぇぇぇ！」

悪魔は叫びながら、光剣を構えて捷也に突っ込んだ。そして間合いに入り、剣を振り下ろす。
だが、捷也はそれを紙一重でかわした。

悪魔B
「な！？」

捷也がかわした事に悪魔は驚愕する。
敵の攻撃をかわした捷也は右手のエレメントソードを悪魔目掛けて振り下ろした。
すると、パワーが溜め込まれ、虹色に輝く刀身はDバリアを切り裂き、そのまま悪魔を切り裂いた。

悪魔B
「ぐあああああ！」
切り裂かれた悪魔は、そのまま消滅した。
悪魔C
「バカな！？Dバリアを切り裂いただと！？」
悪魔D
「ふざけた真似しやがって…ぶっ殺してやる！」
それを見た他の悪魔達は仲間がやられた事によって激昂し、翼を広げ、空から捷也に向かっていく。
捷也
「エレメントアップ！ブリザードペガサス！！」
そう言うと、胸の鎧にはめ込まれているスタークリスタルが水色の輝きを放ち、捷也を包み込むと、中から体の鎧に薄い水色のラインが刻まれ、両腕には爪のようなものが折り畳まれ、クリスタルが水色になり、刀身が冷気を纏ったエレメントソードを持った捷也、氷の力を操る『ブリザード・ペガサスフォーム』になった捷也が居た。
捷也
「エレメントウイングッ！」
そう言うと、捷也の背中から属性に対応する翼、『エレメントウイング』が展開し、今はブリザード・ペガサスフォームなので氷の翼となったそれをはためかせ、捷也は飛翔した。
捷也
「いけ！エレメントアロー！」

左腕の弓を展開し、二連装の砲口から氷の矢が放たれた。
放たれた二本の矢はDバリアを貫き、悪魔の一体に突き刺さり、その悪魔を氷漬けにし、その氷はバラバラに砕け散った。

悪魔D
「てめえええ！！」

そこへ悪魔の一体が紫色のビームを捷也に向けて放った。
だが捷也はそれをかわし、次の行動に移った。

捷也
「エレメントブラスター！」
そう叫ぶ彼の左腕の展開されたエレメントアローが虹色の光になって量子変換され、左腕にはやや銃身の長い銃、『エレメントブラスター』が出現し、捷也はそのグリップを掴んだ。
そのまま捷也はエレメントブラスターを悪魔に向け、トリガーを引いた。銃口から水色のビームが放たれ、そのビームが命中した悪魔をアロー同様氷漬けにした。

捷也
「うおおおおぉぉぉっ！」

そのまま間髪入れず、捷也はエレメントウイングを羽ばたかせて悪魔に向かっていく。
目の前の悪魔をエレメントソードから直線的に放出させた冷気、『フリーズブラスト』で凍結させ、エレメントブラスターから放つ氷のビームで悪魔を氷漬けにする。悪魔E
「こん畜生がああああああ！！」

そこへ血迷ったのか、数体の悪魔が光剣を構えて捷也に突進してきた。
それに対し、捷也は氷の力をエレメントソードに溜め込んでいた。
氷の力が溜め込まれていく剣の刀身が水色に輝く。

捷也
「はあああっ！必殺！！」

その力を悪魔に向けて捷也は解き放つ。
溜め込まれた氷の力は凄まじい吹雪となって悪魔に襲い掛かり、巨大な氷柱と化した。

捷也
「アイシクルッ！スラァァァァッシュ！！」

その氷柱を捷也は目にも止まらぬ速さで氷の力を溜め込んだエレメントソードで一閃した。
一閃された氷柱は数秒後、凍り付いた悪魔ごと粉々に砕け散った。

悪魔G
「貫ったぜえええぇぇ！」

そこへ、運良く逃れた悪魔が捷也の背後から襲い掛かり、光剣を突き立てた。
が、光剣の先は、なにも貫けなかった。

悪魔G
「なに！？何処に行きやがった！？」

それに驚愕し、悪魔は辺りを見渡す。

その瞬間、ぞくり、とした感覚が悪魔に流れた。
その悪魔の背後には、先程まで背後から急襲した筈の捷也が居た。

悪魔G
「な！？ま、まさかお前！」

捷也
「その通り。僕はその気になれば、光速で動く事だって出来るんだよ」

そう言うと、捷也は悪魔をエレメントソードで一閃した。
この周辺の悪魔を全て倒した彼はその場から立ち去ろうとしたが、
その中の、捷也の前に滞空している黒を基調とした服を纏い、手には鎌のようなものを持った金髪の女性が捷也に問い掛けた。

捷也
「…分かりました。同行します」

そう答えた捷也は機動部隊のメンバーに同行していった。

第3話　邂逅する星の勇者（後書き）

次回予告
第４話　金色と白銀
お楽しみに！

『ゴルディマーグＭｋ２』これが勝利の鍵だ！

主人公紹介（前書き）

順次更新していく予定です。

主人公紹介

名前　星野　捷也
（ほしの　かつや）

年齢　１５歳

種族　人間（？）（男）

好きなもの　アニメ　ゲームカップラーメン

嫌いなもの　イジメ　差別　イヅナ達を傷つけたりする奴

誕生日　１月１８日

身長　１５８センチ

体重　４０キロ

神具　六道拳アスラ（麒麟）

アイテム　スタークリスタル、紺晶石

魂獣　龍鬼、イヅナ

機体　ガオファイガー

ポテンシャル　？？？

見た目　髪形、髪の色、服装は『神羅万象チョコ　ゼクスファクター』の主人公、火群カイそのまま。顔立ちはカイを少し幼くした感じ。
性格　普段は優しいが、イヅナ達を傷付けたり、本気で怒ると烈火の如くキレる。尚、イヅナと龍鬼は捷也が小さい頃から一緒に居て、大切にしてくれた為、大の仲良し。
イヅナは捷也に恋心を抱いており、本人もイヅナの事が好き。
悪運が強く、かなり少食。本人曰く、『カップラーメンが一個あれば2日は活動出来る』らしい。
多次元銀河系の作品は全て知っており、その知識や作品に対しての心は真のオタクと言っていい。
ラフィエル達ゼウス一族の元で五年間修行していた。その時に、『戦力になりそう』という事から作った『ダンボール戦機』の全ての武器を製作し、量子変換している。また、全ての必殺ファンクションが使える。その他にも本人曰く『使えそうなものは作った』という事で他にも作成したものがある。『スタークリスタル』と呼ばれるクリスタルペンダントを首から掛けており、またの名を『スターファイター』。頭脳と戦闘能力は今の所未知数。
ラフィエル達から家事スキルなど教わっていた為、家事等も得意。
五年間の修行を終えた後は多次元銀河系に向かう事になっているが、現在は様子見という事で、ラフィエルが用意した異次元空間の格納庫付きで高級マンション並の部屋で多次元銀河系を観察している。
どういう訳か、前に出て喋る時に必ず行き帰りで転び、礼をした時にマイクがあった場合、必ず頭をぶつける癖がある。

オリジナル形態について

エレメントナイトフォームについて

その名の通り、あらゆる属性の力を持った姿の事。
見た目はインフィニット・ストラトスの白式・雪羅を鎧のようにした感じで、色は白を基調としている。
頭の部分は両耳の部分に後ろ斜め上に延びているブレードアンテナのようなヘッドギアが装着され、捷也の意思によってヘッドアーマーも展開可能。
属性に特化した姿、『エレメントフォーム』になる時は胸にはめ込まれているスタークリスタルがその属性の色に輝き、その色を基調とした姿になる。
また、エレメントフォームにはその姿の時に使える『固有武装』があり、エレメントフォームの属性に対応した武器や必殺ファンクションを使用すると威力が上がる。

武装（ノーマルフォーム）

・エレメントソード
片手、両手持ち兼用の剣。鍔には虹色のクリスタルがはめ込まれており、エレメントフォームの時には対応した色に変わる。
ビームを撃ち出したり、斬撃を衝撃波として飛ばす事も可能。

・エレメントアロー
左手に装備された遠距離武装。
二連装の砲口が付いた銃身に弓を付けた形をしており、使用時に弓が展開し、砲口から属性に対応した矢を放つ。だが、ブラスターが開発されてから使用頻度が少なくなった。

・エレメントブラスター
捷也が開発したやや銃身の長いライフル。主に左手に持って使用し、アロー同様、遠距離の武器だが此方はビームを放つ。また、エレメントソードのものと同じ虹色のクリスタルがはめ込まれている。

・エレメントウイング
背中から展開する白い翼。展開する事により、飛行を可能にする。エレメントフォームの時は属性の翼に変わる。

・エレメントシールド
通常時は量子変換されている盾。
その属性に対応したバリアを展開出来る。

エレメントフォーム紹介

・ブリザードペカザス
氷の力を操るエレメントフォーム。
色は水色。
捷也が一番使う姿。
主に剣、ナックル、片手銃を主体とする。

固有武装
・アイスファング
両手に折り畳まれた氷の爪。使用時に展開し、ミサイルのように撃ち出す事も可能。また、ファング中央の長いタイプは分離してダガーとしても使用できる。

技

・フリーズブラスト
冷気を直線上に放出する技。

・フロストミサイル
鋭利な氷の塊を作り出し、相手に向かって撃ち出す。追尾性能有り。

・ディメンションブリザード
エレメントウイングから凄まじい吹雪を放出し、辺り一面を凍結させる。

必殺技

・アイシクルスラッシュ
相手に吹雪をぶつけて氷柱に閉じ込め、エレメントソードで一閃する。

・フレイムワイバーン
炎の力を操るエレメントフォーム。
色は赤色。
主に剣、ハンマー、ランチャーを主体とする。

固有武装
・バーニングアロー
エレメントアローが赤くなった弓。
銃身が三連装になり、真ん中のものの左右に少し短いものが取り付けられた感じ。
３つの砲口から放たれる矢を１つに収束して放つ事も可能。

技

・ヒートキャノン
相手に命中すると爆発する火の玉を放つ。

・ボルカニックアロー
バーニングアローから炎の矢を上空に撃ち出し、それが分裂して雨のように降り注ぐ。

・ブレイジングファイア
強力な火炎放射を直線上に放つ。

必殺技

・プロミネンスメテオ
頭上に巨大な炎の隕石を作り出し、相手に向かって発射する。

・オーシャンシャーク
水を操るエレメントフォーム。
色は青色。
主に剣、両手銃を主体とする。

固有武装
・スプラッシュリング
体の周りに展開される水のリングで、攻撃や防御に転用出来る。

技

・ウォーターバルカン
圧縮した水の散弾を放つ。

・アクアボール
粘着性のある水の玉を多数撃ち出す。

・マリンウェーブ
巨大な波を作り出し、相手にぶつける。

必殺技

・オーシャンカノン
高水圧の水の球体を撃ち出し、爆発させる。

・ライトニングユニコーン雷を操るエレメントフォーム。
色は黄色。
主に剣、槍を主体とする。

固有武装
・プラズマキャノン
背部のキャノン砲。
左右に1つずつ装備され、雷の砲撃が出来る。
最大で3連射までしか出来ないが、威力が高い。

技

・エレキフラッシュ
掌から電撃を放つ。

・オールスパーク
周囲に多数の落雷を落とす。

・ストライクサンダー
前方に強力な雷を撃ち出す。

必殺技

・ライトニングブレイド
長大な雷の剣を相手に振り下ろし、同時に巨大な落雷を浴びせる。

・サイクロンウルフ
風を操るエレメントフォーム。
色は緑色。
主に二刀流、二丁拳銃を主体とする。

固有武装
・ストームフェザー
背部に取り付けられた翼が付いたブースター。
翼は剣、ブーメランとして使用出来る。

技

・トリプルタイフーン
３つの竜巻を作り出し、相手に撃ち出す。

・ストームウォール
嵐を纏う技。嵐で遠距離攻撃を跳ね返したり、嵐から発生したカマイタチを撃ち出す事も出来る。

・ハリケーンドライブ
巨大な竜巻を作り出し、相手に浴びせる。

必殺技

・サイクロンランス
風の槍を作り出し、相手に向かって撃ち出す。

・ガイアタウロス
土の力を操るエレメントフォーム。
色はオレンジ色。
主にナックル、ハンマー、ランチャーを主体とする。

固有武装
・グランナックル
両手の岩のようなナックル。攻撃力と防御力はピカ一。

技

・ストーンショット
尖った岩を相手に浴びせる。

・グランドグレイブ
地面から岩を突き出し、相手にぶつける。

・マウンテンハンマー
岩で巨大なハンマーを作り出し、振り下ろす。

必殺技

・ガイアインパクト
地面を殴り付け、広範囲に衝撃波を発生させる。

カスタムエレメントフォームについて
通常の属性とは少し違う特殊な属性の姿。
大まかな所はエレメントフォームと同じだが、エレメントウイングがそのフォームの色のものになる。

・グラビティヘラクレス
重力を操るエレメントフォーム。
色は紫色。
主に槍、両手銃を主体とする。

固有武装
・グラビティガトリング
重力の弾丸を発射するガトリングガン。
命中した時、使用者の意思によって命中した場所の重力を変えられる。

技

・グラビティバインド
指定した場所に特殊な重力を発生させ、その場所の物体を拘束する。

・グラビティチェンジ
指定した場所の重力を重くしたり、軽くしたりする。

・グラビティウェイト
重力の分銅を相手の頭上に作り出し、落下させる。

必殺技

・グラビティデストロイ
グラビティガトリングから重力の弾丸を多数撃ち出して相手を重くした重力で包み込み、そのまま重力で押し潰す。

・マグネットアーサー
磁力を操るエレメントフォーム。
色は銀色。
カスタムエレメントフォームの中では捷也が一番よく使用する姿で、主に剣、片手銃を主体とする。

固有武装
・マグネットセイバー
磁力を纏った両刃の長剣。磁力を放出する事も出来る。

技

・マグネティックゾーン
周囲に特殊な磁力を放出して磁力の空間を作り出す。その空間の中では専用の対処がしていない機械類を麻痺させる。

・マグネットウィップ
機械類を麻痺させる磁力の網を発射する。

・マグネットボム

爆発すると、機械類を麻痺させる磁力の爆弾を投げ付ける。

必殺技

・マグネットブレイカー
剣に磁力を流し込み、ビームのように撃ち出す。

ゴッドエレメントフォームについて
光の神、ゼウスの究極の光の力と闇の神、ハーデスの究極の闇の力を操る姿の事。エレメントウイングはそれぞれの属性のものとなる。エレメントフォームの中では最強クラスに入る。

・シャイニングゼウス
究極の光の力を操るエレメントフォーム。
色は金色と白色。
主に剣、ナックル、ハンマー、ランチャーを主体とする。

固有武装
・ジャスティスソード
白い光の剣。
使用者の光の心で威力等が変わる。

・ホープネイル
拳の光の爪。長さを調節出来る。

・ヘブンズディーテ
光のハンマー。ハンマーの部分の大きさを調節可能。

・ネメシスクラスター
光のランチャー。光のビームを撃ち出す。出力を調節可能。

必殺技

・ゴッドスラッシュ・シャイニング
光の力を溜めたジャスティスソードで一閃する。

・ダークネスハーデス
究極の闇の力を操るエレメントフォーム。
色は黒色と紫色。
主に剣、槍、ハンマー、二丁拳銃を主体とする。

固有武装
・ダークネスソード
黒い光の剣。
使用者の闇の心で威力等が変わる。

技

・オーガスピア
闇の槍。長さを調節出来る。

・デーモンアックス
闇の斧。刃の部分を調節可能。

・ケルベロスガン
闇の銃。闇のビームを撃ち出す。威力等を調節可能。

必殺技

・ゴッドスラッシュ・ダークネス
闇の力を溜めたダークネスソードで一閃する。

デュアルエレメントフォームについて
２つのエレメントフォームを融合させた姿の事。
登場次第説明予定。

トライエレメントフォームについて
３つのエレメントフォームを融合させた姿の事。
登場次第説明予定。

第４話　金色と白銀（前書き）

少し長めです。

第４話　金色と白銀

～捷也ＳＩＤＥ～
読者の皆さんお久しぶりです。星野捷也です。
現在僕はオービットベースの牢屋にいます。
何故かというと、悪魔との闘いの後になのはさんやフェイトさんを始めとするリリカルなのはのメンバーに連れられてオービットベースに来て、その後は取調室に連れてこられてなのはさん達から質問責めにあいました。
とりあえず隠すと面倒なので僕がガオファイガーのパイロットだという事は話しました。後は答えれる範囲には答えたものの、紺晶石とアスラとスタークリスタルを取り上げられて僕は牢屋に入れられた、という訳です。

捷也
「まあ、とりあえず待つか」

そう言って僕はベッドに横たわり、目を閉じた。

～3時間後～
眠りについた僕は警備員に起こされ、牢屋から出された。
牢屋から出るとガオガイガーのパイロット、獅子王凱さんからスタークリスタル、紺晶石、アスラを渡された。すると紺晶石からイヅナが、アスラから龍鬼が飛び出して僕に飛び付いて来た。どうやら2人は特に変な事をされなかったようだ。だけど、龍鬼はともかくイヅナは僕にくっついたままだった。仕方なく、そのまま僕とイヅ

ナ達は凱さんについていったのだった。

～メインオーダールーム～案内されたのはオービットベースの司令室、メインオーダールームだった。
そこには凱さんの恋人である卯都木命さんを始めとするＧＧＧのメンバーに緑の星の天海護、赤の星の戒道幾巴、ソルダートＪ、シャッセールのルネ・カーディフ・獅子王が居た。

凱
「総司令、連れてきました」

大河
「ご苦労、凱」

軽く会話を交わす2人。
それが終わると凱が総司令と呼んだ大河幸太郎さんが僕に歩み寄る。

大河
「私は多次元銀河系防衛勇者隊、ワールド連合の総司令官、大河幸太郎だ。君は？」

捷也
「僕は星野捷也と言います」

龍鬼
「俺は龍鬼だ！」

イヅナ

「我は白面金剛九尾イヅナじゃ！」

僕に続き、イヅナと龍鬼も自己紹介をする。
それから凱さん達の自己紹介があり、それが終わるとその場に居た皆さんの表情が真剣なものになった。

大河
「単刀直入に聞く。捷也君、Ｄバリアを持つ悪魔を圧倒する力を持ち、そしてガオガイガーに似たロボット、ガオファイガーを操る君は一体何者なんだ？」

捷也
「何者か…ですか」

その問い掛けに僕は少し間をおき、答えた。

捷也
「ま、僕はそういう力を持つ存在って事ですよ」

あまりにも大雑把な答えを僕は出した。
当然大河さん達は納得出来ないって顔をしている。
だが、そこへイヅナと龍鬼が助け船を出さんとばかりに同意を示してくれた。
それにより、なんとか『悪魔に対抗出来る力を持つ者』と言うことワールド連合に協力する民間協力者という事になり、話は落ち着いたのだった。

～数日後～

ワールド連合に協力する民間協力者となってから数日後、僕はオービットベースの隅っこに部屋を、更に仮のＩＤカードとダンクーガノヴァの通信機をベースにして作られた登録した場所に瞬間移動出来る転送装置を貰っていた。そんな時、異次元ルームにいるファントムガオーから前々から探していたものが見つかったという報告が入り、僕は総司令に話をつけ、転送装置を使って異次元ルームに移動した。

～異次元ルーム～
異次元ルームに着いた僕はコンピューターを起動させ、ファントムガオーのデータを参照した。

捷也
「ここは…」

データが表示された位置はロシアの山奥だった。

龍鬼
「どうするんだ、捷也？」

捷也
「とりあえず行くしかないだろ。イヅナ、龍鬼、着いてきてくれるな？」

イヅナ
「無論じゃ！」

龍鬼
「あったりまえだぜ！」

捷也
「よし…行くか！」
そう言うと、イヅナ達は戻り、僕はエレメントナイトフォームにフォームアップする。
そして、格納庫のカタパルトに乗り、異次元ゲートの座標をロシアの山奥に合わせ、僕は異次元ゲートに飛び込んだ。

〜ロシア、山奥〜
異次元ゲートが開き、そこから現れた僕はエレメントウイングを展開し、山奥を進んでいく。
その中のとある地点に着いた時、僕はそこで停止した。

捷也
「エレメントアップ、ダークネスハーデス」

そう言うと、スタークリスタルが黒く輝き、次の瞬間、僕の姿はエレメントウイングが闇の翼になり、鎧の所々が黒くなった究極の闇の力を操るダークネスハーデスフォームになっていた。
僕は近くの断崖に手をかざして闇の力を発生させる。すると、手をかざした部分が黒い穴のようなものが発生し、それが人の通れる位の大きさになり、それに僕は入っていった。

〜？？？〜
黒い穴に入った先はまるで防空壕のようになっていた。僕が先に進

もうとした瞬間、チャキ、という音と共に黒い槍が二本、首に当てられていた。

???

「貴様何者だ?どうやってここに入った?」

???

「まさか光人類か!?」

槍を当てている男が僕に問い掛ける。槍の刃が首に当てられ、冷たい感触が伝わった。

???

「おい、何をやっている」

その時、前から声が聞こえた。

前を見ると、黒い髪の青年が此方に近寄ってきた。

???

「さ、サディア様…」

???

「我らはこの侵入者を捕らえようと…」

サディア

「侵入者?」

サディアと呼ばれた青年が僕を見る。

すると、青年の顔が驚愕に染まった。

サディア
「馬鹿者！お前ら、ここに入れるという事はこの者は闇を操る力を持っているという事だぞ！そんな事も忘れたのか！？」
？？？
「も、申し訳ありません！」
？？？
「失礼しました！」
サディアの言葉を聞いた2人は槍を引き、脱兎の如く立ち去っていった。
サディア
「すまない、我が同胞が失礼した。とりあえず話を聞きたい。我に着いてきてくれ」
捷也
「分かりました」
そこから僕はサディアという人に居間（？）のような場所に連れていかれた。
そこには子供や女性と言った人達も居て、とりあえず席についてお互いの事を話し合った。
サディアさん達は闇人類で光人類から逃れる為にこんな山奥に身を潜めているのだという。
僕も自分の事や知っている情報を話した。
それにより、サディアさんの信頼を得た。（多分）
そして、これから時々情報を交換するという約束をし、僕は転送装置でオービットベースに戻ったのだった。

～捷也ＳＩＤＥＯＵＴ～

～ナレーションＳＩＤＥ～
サディアとの会談から更に数日後の昼下がり、オービットベースに警報が鳴り響いた。
メインオーダールームに捷也は駆け込むと、ネオワールドシティを破壊しているロボット、植物と機械を融合させた『ゾンダーメタル』が恐らく周りにあった廃棄物等を取り込み、コアになってロボットになったもの、ゾンダーロボが映し出されていた。
見た目は胸の部分にゾンダーメタルが埋め込まれ、黒い鋭角的なボディに細身の手足。右腕は細身の剣のようなになっており、左腕は右腕とは対称的に四つの砲口がついた巨大な腕になっていた。
ゾンダーロボは左腕の砲口から街に向けて熱線を迸らせ、右腕の剣で建物を斬りつける。
自衛隊や地球軍が戦車や戦闘機、ＭＳで迎撃をするも、黒いバリアが攻撃を全て防いでいた。

イヅナ
「捷也！まさかあれは…」

捷也
「ああ。あれはＤバリアだ。恐らく、ゾンダーメタルに悪魔の能力を融合させたんだろうよ」

イヅナと捷也が周りに聞こえない声で会話する。

大河
「勇者ロボ軍団、及び戒道君は発進準備に入ってくれ！」

一同
『了解！』
大河
「それから捷也君！」
捷也
「はい！」
大河
「君はツクヨミに搭乗して凱達に同行をしてくれ！」
捷也
「了解！」
大河に応えた捷也はオービットベースの格納庫に向けて走り出した。

～ネオワールドシティ～
依然としてゾンダーロボは街への破壊行為を続けていた。
自衛隊や地球軍が必死に攻撃を加えるも、ゾンダーロボは意に介さない。
だがそこへ、オービットベースから発進したディビジョン7、ツクヨミ、ディビジョン8、タケハヤ、ディビジョン9、ヒルメ、更に白い戦艦、ジェイアークが上空に現れた。
そして既に合体を済ませたスターガオガイガーに氷竜と炎竜が合体

した『超竜神』、風龍と雷龍が合体した『撃龍神』、光竜と闇竜が合体した『天竜神』、ボルフォッグとそのサポートメカであるガンドーベルとガングルーが合体した『ビッグボルフォッグ』、更にマルチロボであるゴルディマーグは人型に変形し、同じくマルチロボであるマイクこと『マイク・サウンダース13世』はコスモロボ形態から人型に変形し、ジェイアークはまずJがジェイアーク上部の『ジェイバード』とフュージョンし『ジェイダー』になり、そこへルネもフュージョンしてジェイダーがジェイバードが分離したジェイアーク、『ジェイキャリア』と合体し、全長100メートルのジャイアントメカノイド、『キングジェイダー』がネオワールドシティに降下していった。
（因みに捷也はツクヨミで待機している。）

凱
「そこまでだ、ゾンダー！」

凱の声にゾンダーは凱達の存在に気付く。
（自衛隊や地球軍は既に撤退を始めていた。）
ゾンダーロボは左腕の砲口を向け、凱に発射した。

凱
「はあああっ！」

それを凱はブースターを噴かして上空に舞い上がり、回避する。

マイク
「ディスクM！セットオン！」

そこへUFOのような飛行メカ、『スタジオ7』に乗ったマイクがスタジオ7から射出された紫色のディスクをキャッチし、胸のCD

プレーヤーのような装置に入れる。

マイク
「ギラギラーン！ＶＶ！！」

更にスタジオ7からキーボードとギターが合わさったツール、『ギラギラーンＶＶ』が射出され、マイクはそれをキャッチして弾いた。すると、特定の機器を麻痺させるマイクロウェーブがゾンダーロボに放出され、動きを鈍らせる。

超竜神
「ダブルガン！」

撃龍神
「龍巻！」

ビッグボルフォッグ
「４０００マグナム！」

そこへ超竜神が両腕の銃器、『ダブルガン』を、撃龍神が右腕のミキサー、『ジャオダンジィ』を高速回転させて発生させた竜巻を、ビッグボルフォッグの右腕のバルカン砲をそれぞれ違う方向から発射し、ゾンダーロボに射撃を浴びせる。
ゾンダーロボはＤバリアでそれを防ぐ。

天竜神
「ダブル・リム・オングル！！」

そこへ天竜神が翡翠色の光剣、『ダブル・リム・オングル』で斬り掛かるが、それもＤバリアが防ぐ。

しかしそれは凱達の計算の内だった。

超竜神
「隊長！J！今です！」

凱
「行くぞ、ゴルディマーグ！」

ゴルディ
「おっしゃあ！任せろ！」

J
「分かっている！」

～メインオーダールーム～その頃、メインオーダールームではその様子を見ていた大河が懐から取り出したケースに入っている金色の鍵を取り出していた。

大河
「ゴルディオンハンマー！発動承認！！」

声と共に大河は自分の机にの鍵穴がある装置に鍵を突っ込み、鍵を回した。

～ツクヨミ～

ツクヨミの司令室にはメインオーダールームで大河がゴルディオンハンマーを承認した事が伝わっており、命がその最終ロックを外そうとしていた。

火麻
「いけ、卯都木！」

火麻が命に指示を飛ばす。

命
「了解！ゴルディオンハンマー！セーフティディバイス、リリーヴッ！！」

命は懐からカードキーを取り出し、それを机のスキャナーにスキャンしてゴルディオンハンマーの最終ロックを外した。

～ネオワールドシティ～

凱、ゴルディ
「「うおおおおおっ！」」
ゴルディオンハンマーの承認を確認した凱とゴルディがブースターを噴かして舞い上がった。
凱のガオガイガーは右腕を外して、外した右腕は背面のステルスガオー2に固定される。
ゴルディは頭部とハンマーの部分が外れ、体の部分は変形して巨大なオレンジ色の腕、『マーグハンド』となった。

凱

「ハンマーコネクト！」

そのマーグハンドがガオガイガーの右腕に合体し、分離したハンマーを握る。

凱

「ゴルディオン！ハンマァァァァァァ！！」

ハンマーを握った瞬間、Ｇストーンがバーストモードになり、ガオガイガーの全身が金色に変化した。

Ｊ

「行くぞ、ルネ！」

ルネ

「ああ！」

キングジェイダーは右腕の弓のような武器を構えていた。

トモロ

『ジュエルジェネレーター全開！』

キングジェイダーのＡＩ、トモロの報告がＪの耳に入る。

その瞬間、弓のような武器にＪジュエルのエネルギーがチャージされていき、赤い輝きを放つ。

Ｊ

「凱！準備は良いな！？」

Ｊが視界の端に映ったガオガイガーに問い掛ける。

凱
「当たり前だ！」

その問い掛けに凱は力強い返事を返した。
そして凱はブースターを噴かし、マーグハンドから取り出した光のクギを左手に持ち、ゾンダーロボに向かっていく。

凱
「ハンマァァァ！ヘル！！」

左手のクギをゾンダーロボに凱は突き立てる。
（勇者ロボ軍団は直前に離脱した。）

Ｊ、ルネ
「「ジェイ！クォォォォォォス！！」」

右腕の弓が火の鳥となり、ゾンダーロボに飛翔していき、命中するが、どちらもＤバリアで防がれる。
クギとジェイクォースがＤバリアとぶつかり合い、凄まじい火花が散り、辺りを照らす。

ゾンダーロボ
「……！」

だが、ゾンダーロボは意にも介さず、右腕の剣を振るい、ガオガイガーとジェイクォースを弾き返した。

凱
「うわあっ！な、なに！？」

J
「バカな！？」

ゾンダーロボ
「……！」

ゾンダーロボは弾いたガオガイガーに左腕を向け、熱線を発射した。

凱
「ぐあああああ！」

ルネ
「凱！」

ガオガイガーは熱線を喰らい、倒れ込む。それを確認したゾンダーロボは右腕の剣を構えてキングジェイダーに迫る。

J
「ジェネレイティングアーマー！最大展開！」

トモロ
『了解！』

それに対しJはキングジェイダーの表面にJジュエルのエネルギーの鎧を展開する。
だが、ゾンダーロボの剣による斬撃はその鎧を切り裂き、その下の白い装甲を切り裂いた。

J
「な、なんだと！？」
トモロ
『ジェネレイティングアーマー破損！胸部装甲、裂傷！！』
切り裂かれた装甲が爆発し、キングジェイダーは体勢を崩した。

～ツクヨミ～

命
「凱！」

護
「そんな！？ゴルディオンハンマーやジェイクォースが効かないなんて…」

ツクヨミの司令室で戦闘の様子を見ていた命と護が驚愕の声をあげる。
現在は勇者ロボ軍団がゾンダーロボと闘っているが、ゾンダーロボは勇者ロボ軍団を圧倒していた。
護達の横では捷也が戦闘の様子を見ている。
その最中、ツクヨミの通信を通じて捷也に大河から通信が入った。

大河
『捷也君…このままでは凱達はやられてしまう…君の力を貸してはくれないだろうか？』

捷也
「…良いですよ」

大河
『ありがとう…では頼む！』

そう言うと、大河との通信が終わり、捷也はツクヨミの格納庫に向かった。

～ツクヨミ、格納庫～
格納庫に着いた捷也は非常ハッチを開け、降下体勢に入った。

捷也
「フォームアップ！エレメントナイト！！」

声と共にフォームアップした彼は格納庫の床を蹴り、非常ハッチから外に飛び出した。

捷也
「エレメントウイング！」
捷也は純白の翼を広げ、大空を飛行する。

捷也
「ファントムガオー！！」

捷也が叫ぶと、上空に異次元ゲートが開き、ゲートからファントムガオーが、それに続いてガオーマシンが出現する。

捷也
「フュージョン！ガオファー！！」
捷也がファントムガオーとフュージョンし、ガオファーに変形する。
捷也
「Ｆ・Ｆプログラム起動！」
ファントムガオー
『Ｆ・Ｆプログラム、起動を確認！』
捷也
「ファイナル！フュージョォォォン！！」
ガオファーから電磁竜巻が発生し、それがガオファーを包む。その中にガオーマシンが突っ込み、約一分後、電磁竜巻を吹き飛ばし、ガオファイガーが現れた。
捷也
「ガオッ！！ファイッ！！ガァァァッ！！！」
ガオファイガーとなった捷也はウルテクウイングを展開し、進路をネオワールドシティに向け、飛翔していった。

～ネオワールドシティ～
その頃、ネオワールドシティの倒壊した建物のあちこちには傷だらけになった勇者ロボ軍団が倒れていた。

ゾンダーロボ
「……」

それをやったのは無論ゾンダーロボだ。
ゾンダーロボは倒れているガオガイガーの方を見ると、ガオガイガーに向けて移動を始めた。

捷也
「そうは問屋がおろさねえぜキィッッック！！」

そこへ捷也のガオファイガーが飛来し、背中のブースターで付いた勢いを利用してドロップキックをゾンダーロボにぶちかました。
Dバリアが砕け、胸の装甲にヒビが入り、ゾンダーロボが倒れ込む。
ガオファイガーはドロップキックをかますとすぐに離れて地面に降り立った。

凱
「か…捷也なのか？」

捷也
「凱さん、大丈夫ですか？」

凱
「なんとかな…ぐっ！」

凱は起き上がろうとしたが、何処か痛めたのかそのまま倒れ込む。

捷也
「無理しないで下さい。あいつは僕が何とかします！」

凱にそう言った捷也はゾンダーロボに接近していく。それに対し、ゾンダーロボは立ち上がり、左腕から熱線を迸らさせた。

捷也
「遅いっ！」

それをかわした捷也はそのまま右腕を奥に引き、中空にガオファイガーの腹部から形成されたエネルギーリング、『ファントムリング』が展開され、その右腕にパワーが溜め込まれ、赤く輝き、高速回転を始める。

捷也
「ブロウクンッ！ファントムッ！！」

そのまま突進の勢いを乗せた右腕が回転しながらロケットパンチの要領で打ち出された。
途中でファントムリングに撃ち出された右腕が通り、合わさって強力になる。
その回転する右腕がゾンダーロボの左腕を捉え、左腕がひしゃげる。

ゾンダーロボ
「……！」

それを見たゾンダーロボは左腕を再生しながら残った右腕の剣を振りかざし、ガオファイガーに迫る。

捷也
「はあああああっ！！」

その剣が捷也の目前に達した時、捷也は背面のブースターを噴かし、体をぐるんとひねって後ろ回し蹴りを繰り出した。

繰り出された右足が振り下ろされた剣の横っ腹に炸裂し、剣を真ん中から真っ二つに叩き折った。

捷也
「せいやあああ！」

そこへ回し蹴りの体勢から突進の体勢に入った捷也は右足のドリルニー２を回転させ、膝蹴りを喰らわせる。
ゾンダーロボは再生した左腕を盾にするが、４つの節々事に違う高速回転するドリルは易々と左腕を粉砕した。
それによりゾンダーロボは後方に大きく吹っ飛んだ。

捷也
「止めと行くぜ！来い！ゴルディマーグＭｋ２！！」

高々と捷也はガオファイガーの右腕を上空に構え、叫んだ。
その瞬間、上空に異次元ゲートが開き、そこから白い戦車、ゴルディタンク形態のゴルディマーグＭｋ２が飛び出し、盛大な土煙をあげながら着地した。

ゴルディＭｋ２
「ようやく俺の出番が来たぜ！！」

そのままゴルディタンクのゴルディＭｋ２が爆走し、ガオファイガーに向かっていく。

ゴルディＭｋ２
「システムチェェェンジッ！！」

ゴルディタンクが起き上がり、変形を開始する。

下部が足に、上部の左右が両腕に変形し、その間の正方形のパーツがせり上がって顔が出現し、その双眼に青い光が灯った。

ゴルディＭｋ２
「ゴルディマーグ！Ｍｋ２！！」

ゴルディ
「うおおお！？白い俺が居る！？」

凱
「これは一体！？」

ゴルディＭｋ２を見た凱達は驚きを隠せなかった。

捷也
「ファントム！ゴルディＭｋ２！Ｇ・Ｈシステム作動！」

ファントムガオー
『了解！Ｇ・Ｈシステム作動！ゴルディマーグＭｋ２とのシンクロ開始！』

ゴルディＭｋ２
「Ｇ・Ｈシステム作動！ガオファイガーとのシンクロ確認！」

捷也
「おっしゃあ！やってやるぜ！！」

ゴルディＭｋ２
「システムチェェェンジッ！！」

捷也とゴルディＭｋ２が舞い上がり、ゴルディＭｋ２の正方形のパーツが降りる。
そしてゴルディＭｋ２はゴルディマーグ同様頭部とハンマーの部分が分離し、体の部分は巨大な白い右腕、『マーグハンドＭｋ２』に変形する。
ガオファイガーは、ガオガイガー同様右腕を分離させ、その右腕を背面のステルスガオー３に固定していた。

捷也
「ハンマーコネクト！！」

声と共に捷也は右腕を突き出し、マーグハンドＭｋ２が右腕と合体し、コネクト部分から火花が散る。
マーグハンドの拳がゆっくりと開き、ハンマーを握る。

捷也
「ゴルディオン！ハンマァァァァ！！」

その叫びと共に、ガオファイガーの全身はガオガイガーのような金色の輝きではなく、それとは対照的は銀色の輝きを放った。

捷也
「うおおおおおお！！！」

捷也は両手でガオファイガーと同じ銀色の輝きを放つハンマーを振りかざし、背面のブースターを噴射しゾンダーロボに向かっていく。
そして、距離が縮まりハンマーの間合いに入った所で捷也は銀色に輝くハンマーをゾンダーロボに叩き付けた。
ハンマーから発せられる特殊震動により、ゾンダーロボは少しずつ光に変換されていく。

捷也
「光になれえええぇぇぇ！！」

捷也は出力をあげ、そのままゾンダーロボはコアごと銀色の光に変えられた。
辺りに元はゾンダーロボだった銀色の光が舞い、傷付いたガオガイガー達を照らす。
だが、辺りを支配しているのは静寂だった。
いや、静寂しかなかった。

第４話　金色と白銀（後書き）

少し予告を変えてみました。

次回予告

「本当に君はなんなんだ？」

「僕は僕にしか出来ない事をやるだけさ」

「ようこそ！ワールド連合地上本部へ！」

「その…助けてくれてありがとう…」

次回

第５話　捷也、地上本部へ。そして運命の出会い？

お楽しみに！

『飛鷹葵』

これが勝利の鍵だ！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6859v/

星の勇者スターファイター

2011年12月30日00時50分発行